

2025（令和7）年度
総合教養科目

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：選択
担当教員			
村木桂子、布施梓			
ナンバリング：G11C01			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 大学における専門科目を学ぶためだけでなく、就職試験に向けて、また社会人としての礎を築くため、学びの基盤と就職活動に必要な日本語力を身につける。個別学習（オンデマンド授業）では問題を解くことで基礎的な日本語能力（読解・語彙・論理）をそれぞれのペースで鍛え、相互学習（対面授業）では個々に鍛えた力をグループワークによる言語運用力（伝達・思考・協働）で発展させる。これらの相補的な演習を繰り返し行うことで、学科で専門的な学びを深めるためのアカデミック・スキルや、就職活動に必要な読む力と書く力を養う。 (授業目標) 基礎問題において、図や文章の読み取り、ものごとの因果関係を理解することができる。 (学習成果) ◎D：課題への取り組みを通して大学生としてふさわしいアカデミック・スキルを身につけ、ある程度まとまった文章をわかりやすく書くことができる。 ○E：一般的な就職試験問題を無理なく解くことができる。
授業計画	1 ガイダンス【対面】 プレイメントテスト：読解問題、SPI問題 講義の目的と目標、授業のルールと流れの確認 (ICTの活用：e-learning) 2 説明の流れを読み取る、SPI言語(1)【対面】 演習問題：SPI推論、テーマについての説明、検索／社会人言語運用トレーニング (ICTの活用：e-learningにて事後学修) 3 説明の流れを読み取る、SPI言語(2)【オンデマンド】 読解問題：SPI推論、説明文読解問題、リーディングスキルテスト読解問題、SPI言語問題 (ICTの活用：e-learningにて事後学修) 4 指示語の内容をとらえる、SPI言語(3)【対面】 演習問題：SPI推論、テーマについての説明、検索／社会人言語運用トレーニング (ICTの活用：e-learningにて事後学修) 5 指示語の内容をとらえる、SPI言語(4)【オンデマンド】 読解問題：SPI推論、説明文読解問題、リーディングスキルテスト読解問題、SPI言語問題 (ICTの活用：e-learningにて事後学修) 6 話の展開を読み取る、SPI言語(5)【対面】 演習問題：SPI推論、テーマについての説明、検索／社会人言語運用トレーニング (ICTの活用：e-learningにて事後学修) 7 話の展開を読み取る、SPI言語(6)【オンデマンド】 読解問題：SPI推論、説明文読解問題、リーディングスキルテスト読解問題、SPI言語問題 (ICTの活用：e-learningにて事後学修) 8 修飾語をとらえる、SPI言語(7)【対面】 演習問題：SPI推論、テーマについての説明、検索／社会人言語運用トレーニング (ICTの活用：e-learningにて事後学修) 9 レポートの書き方(1)、SPI言語(8)【オンデマンド】 レポートの構成、文体、テーマの選び方について／SPI言語問題 (ICTの活用：e-learningにて事後学修) 10 主語と述語をとらえる、SPI言語(9)【対面】 演習問題：SPI推論、テーマについての説明、検索／社会人言語運用トレーニング (ICTの活用：e-learningにて事後学修) 11 レポートの書き方(2)、SPI言語(10)【オンデマンド】 レポートの引用・出典の書き方について／SPI言語問題 (ICTの活用：e-learningにて事後学修) 12 事実と意見を読み分ける、SPI言語(11)【対面】 演習問題：SPI推論、テーマについての説明、検索／社会人言語運用トレーニング (ICTの活用：e-learningにて事後学修) 13 事実と意見を読み分ける、SPI言語(12)【オンデマンド】 読解問題：SPI推論、説明文読解問題、リーディングスキルテスト読解問題、SPI言語問題 (ICTの活用：e-learningにて事後学修)

	14 要点をとらえる（プレゼンテーション）【対面】 ミニプレゼンテーション（ビブリオバトル） （ICTの活用：e-learningにて事後学習） 15 要点をとらえる、SPI言語⑬【オンデマンド】 読解問題：SPI推論、説明文読解問題、リーディングスキルテスト読解問題、SPI言語問題 （ICTの活用：e-learningにて事後学習）
到達目標・基準 C評価になる基準	◎D：論理的な文章の基本型を理解し、書くことができる。 ○E：基礎的な就職試験問題を解くことができる。
事前・事後学習	事前学習 e-learning上の指示された課題に取り組む。（60分程度） 事後学習 授業内容を復習する。課題は合格点に達するまで繰り返し復習する。文章課題を完成させる。（60分程度） ※毎週、期限内にGoogle Classroomへ課題を提出する。
指導方法	オンデマンド授業で個々に取り組む読解問題学習と、対面授業でのグループワークという隔週授業が基本である。 フィードバックの仕方：オンデマンド・対面授業共に、課題に対して総括のコメントを行うとともに、必要に応じて個別に指導する。 ※質問には、1階総合教養センター授業にて、授業時間外でも対応する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎D：課題の提出状況で評価する。 ○E：課題の提出状況で評価する。 課題90%、平常点（授業内ワーク、授業貢献度）10%（総合的に評価する）
テキスト	テキスト：なし。毎回課題をClassroomに配信する。
参考書	『2025最新版 史上最強SPI&テストセンター超実戦問題集』オフィス海著（ナツメ社） 『大学生 学びのハンドブック』6訂版（世界思想社編集部） 『アカデミック・スキルズ ――大学生のための知的技法入門』第3版（慶応義塾大学出版会）
履修上の注意	やむを得ず授業を欠席した場合は、速やかに課題を確認するため1F・総合教養センターへ行き、休んだ分の課題もこなしておくこと。毎回の演習・課題を積み上げることで最終的に目標が達成できるしくみとなっているため、全講座の受講と共に課題における平均点以上の獲得を目標にすること。
アクティブ・ラーニング、PBL	PBL型授業、ディスカッション、グループワーク、ミニプレゼンテーション、相互フィードバック

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	総合：選択
担当教員			
吉川尚志			
ナンバリング：G11C02			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒D：知識を活かして考える力 ☐E：学んで理解する力
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 大学における専門科目を学ぶためだけでなく、就職試験に向けて、また社会人としての礎を築くため、基礎となる計数分野を学修する。 (授業目標) 高校までに修得した、修得すべき数学を見直し、得意な人は復習し、苦手な人はマスターする。 (学習成果) ○C：与えられた課題を計画性を持って自身で解くことができる。 ◎D：就職試験の非言語分野において、大半の問題を自身で解くことができる。
授業計画	第1回 【オンデマンド1回目】少数の四則演算 少数の四則演算を学びます。 解説についてはGoogle Classroomの動画を参照してください。 課題は第1回の対面講義時に配布し、第5回の対面講義の前日までに提出してください。 第2回 【オンデマンド2回目】分数の四則演算、年齢算 分数の四則演算と年齢算を学びます。 解説についてはGoogle Classroomの動画を参照してください。 課題は第5回の対面講義時に配布し、第9回の対面講義の前日までに提出してください。 第3回 【オンデマンド3回目】複雑な四則演算、虫食い算 複雑な四則演算と虫食い算を学びます。 解説についてはGoogle Classroomの動画を参照してください。 課題は第9回の対面講義時に配布し、第13回の対面講義の前日までに提出してください。 第4回 【対面1回目】1次方程式、連立方程式、植木算 1次方程式と連立方程式と植木算を学びます。 課題は第2回の対面講義の前日までに提出してください。 第5回 【対面2回目】単位変換、割合、方陣算 単位変換と割合と方陣算を学びます。 課題は第3回の対面講義の前日までに提出してください。 第6回 【対面3回目】単位と割合、規則性 単位と割合と規則性を学びます。 課題は第4回の対面講義の前日までに提出してください。 第7回 【対面4回目】損益算、周期算 損益算と周期算を学びます。 課題は第5回の対面講義の前日までに提出してください。 第8回 【対面5回目】複雑な四則演算 複雑な四則演算を学びます。 課題は第6回の対面講義の前日までに提出してください。 第9回 【対面6回目】鶴亀算、平均 鶴亀算と平均を学びます。 課題は第7回の対面講義の前日までに提出してください。 第10回 【対面7回目】速さ 速さの問題を学びます。 課題は第8回の対面講義の前日までに提出してください。 第11回 【対面8回目】濃度 濃度の問題を学びます。 課題は第9回の対面講義の前日までに提出してください。 第12回 【対面9回目】仕事算 仕事算を学びます。 課題は第10回の対面講義の前日までに提出してください。 第13回 【対面10回目】場合の数（確率） 場合の数（確率）を学びます。 課題は第11回の対面講義の前日までに提出してください。 第14回 【対面11回目】実際の就職試験

	非言語分野の実際の就職試験問題を解いてみます。 課題は第12回の対面講義の前日までに提出してください。 【対面12回】テストセンター対策、最終確認試験 就職試験ではPCを用いた学力テストが課されることがありますが、その練習を行います。実際にPCを使用してテストセンターに近い状態で行いますので、PCを持参してください。 最終確認試験を実施し、成績判定を行います。
到達目標・基準 C評価になる基準	○C：与えられた課題を計画性を持って最後まで仕上げるができる。 ◎D：就職試験の非言語分野において、大半の問題を理解することができる。
事前・事後学習	事前学習 授業内容を予習する。(30分程度) 事後学習 前回の課題プリントの解き直しと各回の課題プリントを仕上げ、総合教養センターで検印をもらうまでしっかり取り組む。(60分程度) ※＜重要＞ 毎週、期限内に1F・総合教養センターへ課題を提出する。
指導方法	授業では毎回、課題を課すので、それを週内に提出する。希望者には自学用演習プリントを追加配布する。 ※課題に関する質問には個別に総合教養センターにて対応する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	講義課題を指定日までに提出し10点を獲得する。(遅れて提出した場合は5点) 14回までにすべて遅れずに提出すると140点満点となるが、100点以上獲得しないと単位修得とはならない。 評価については第15回の最終確認試験を50%、課題を50%としてその合計で判定する。 S評価：90%以上 A評価：80%以上 B評価：70%以上 C評価：60%以上
テキスト	テキスト：毎回プリントを配布する。
参考書	『2024最新版 史上最強SPI&テストセンター超実戦問題集』オフィス海著(ナツメ社)
履修上の注意	プリントの枚数が多くなるので、A4サイズの二穴バイnderにプリントをファイリングすること。また、そのバイnderは毎回期日までに提出すること。 ※やむを得ず授業を欠席した場合は、授業で配布したプリントを速やかに1F・総合教養センターまで取りに行き指示に従うこと。 ※学習内容の定着のために春期セミナーの受講を勧める。
アクティブ・ラーニング、PBL	e-learning教材、Google Classroom

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	総合：選択
担当教員			
吉川尚志			
ナンバリング：G11C03			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒D：知識を活かして考える力 ☐E：学んで理解する力
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 大学における専門科目を学ぶためだけでなく、就職試験に向けて、また社会人としての礎を築くため、基礎となる計数分野を学修する。 (授業目標) 高校までに修得した、修得すべき数学を見直し、得意な人は復習し、苦手な人はマスターする。 (学習成果) ○C：与えられた課題を計画性を持って自身で解くことができる。 ◎D：就職試験の非言語分野において、大半の問題を自身で解くことができる。
授業計画	第1回 【オンデマンド1回目】少数の四則演算 少数の四則演算を学びます。 解説についてはGoogle Classroomの動画を参照してください。 課題は第1回の対面講義時に配布し、第5回の対面講義の前日までに提出してください。 第2回 【オンデマンド2回目】分数の四則演算、年齢算 分数の四則演算と年齢算を学びます。 解説についてはGoogle Classroomの動画を参照してください。 課題は第5回の対面講義時に配布し、第9回の対面講義の前日までに提出してください。 第3回 【オンデマンド3回目】複雑な四則演算、虫食い算 複雑な四則演算と虫食い算を学びます。 解説についてはGoogle Classroomの動画を参照してください。 課題は第9回の対面講義時に配布し、第13回の対面講義の前日までに提出してください。 第4回 【対面1回目】1次方程式、連立方程式、植木算 1次方程式と連立方程式と植木算を学びます。 課題は第2回の対面講義の前日までに提出してください。 第5回 【対面2回目】単位変換、割合、方陣算 単位変換と割合と方陣算を学びます。 課題は第3回の対面講義の前日までに提出してください。 第6回 【対面3回目】単位と割合、規則性 単位と割合と規則性を学びます。 課題は第4回の対面講義の前日までに提出してください。 第7回 【対面4回目】損益算、周期算 損益算と周期算を学びます。 課題は第5回の対面講義の前日までに提出してください。 第8回 【対面5回目】複雑な四則演算 複雑な四則演算を学びます。 課題は第6回の対面講義の前日までに提出してください。 第9回 【対面6回目】鶴亀算、平均 鶴亀算と平均を学びます。 課題は第7回の対面講義の前日までに提出してください。 第10回 【対面7回目】速さ 速さの問題を学びます。 課題は第8回の対面講義の前日までに提出してください。 第11回 【対面8回目】濃度 濃度の問題を学びます。 課題は第9回の対面講義の前日までに提出してください。 第12回 【対面9回目】仕事算 仕事算を学びます。 課題は第10回の対面講義の前日までに提出してください。 第13回 【対面10回目】場合の数（確率） 場合の数（確率）を学びます。 課題は第11回の対面講義の前日までに提出してください。 第14回 【対面11回目】実際の就職試験

	非言語分野の実際の就職試験問題を解いてみます。 課題は第12回の対面講義の前日までに提出してください。 【対面12回】テストセンター対策、最終確認試験 就職試験ではPCを用いた学力テストが課されることがありますが、その練習を行います。実際にPCを使用してテストセンターに近い状態で行いますので、PCを持参してください。 最終確認試験を実施し、成績判定を行います。
到達目標・基準 C評価になる基準	○C：与えられた課題を計画性を持って最後まで仕上げるができる。 ◎D：就職試験の非言語分野において、大半の問題を理解することができる。
事前・事後学習	事前学習 授業内容を予習する。(30分程度) 事後学習 前回の課題プリントの解き直しと各回の課題プリントを仕上げ、総合教養センターで検印をもらうまでしっかり取り組む。(60分程度) ※＜重要＞ 毎週、期限内に1F・総合教養センターへ課題を提出する。
指導方法	授業では毎回、課題を課すので、それを週内に提出する。希望者には自学用演習プリントを追加配布する。 ※課題に関する質問には個別に総合教養センターにて対応する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	講義課題を指定日までに提出し10点を獲得する。(遅れて提出した場合は5点) 14回までにすべて遅れずに提出すると140点満点となるが、100点以上獲得しないと単位修得とはならない。 評価については第15回の最終確認試験を50%、課題を50%としてその合計で判定する。 S評価：90%以上 A評価：80%以上 B評価：70%以上 C評価：60%以上
テキスト	テキスト：毎回プリントを配布する。
参考書	『2024最新版 史上最強SPI&テストセンター超実戦問題集』オフィス海著(ナツメ社)
履修上の注意	プリントの枚数が多くなるので、A4サイズの二穴バインダーにプリントをファイリングすること。また、そのバインダーは毎回期日までに提出すること。 ※やむを得ず授業を欠席した場合は、授業で配布したプリントを速やかに1F・総合教養センターまで取りに行き指示に従うこと。 ※学習内容の定着のために春期セミナーの受講を勧める。
アクティブ・ラーニング、PBL	e-learning教材、Google Classroom

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	総合：選択
担当教員			
吉川尚志			
ナンバリング：G11C04			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒D：知識を活かして考える力 ☐E：学んで理解する力
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 大学における専門科目を学ぶためだけでなく、就職試験に向けて、また社会人としての礎を築くため、基礎となる計数分野を学修する。 (授業目標) 高校までに修得した、修得すべき数学を見直し、得意な人は復習し、苦手な人はマスターする。 (学習成果) ○C：与えられた課題を計画性を持って自身で解くことができる。 ◎D：就職試験の非言語分野において、大半の問題を自身で解くことができる。
授業計画	第1回 【オンデマンド1回目】少数の四則演算 少数の四則演算を学びます。 解説についてはGoogle Classroomの動画を参照してください。 課題は第1回の対面講義時に配布し、第5回の対面講義の前日までに提出してください。 第2回 【オンデマンド2回目】分数の四則演算、年齢算 分数の四則演算と年齢算を学びます。 解説についてはGoogle Classroomの動画を参照してください。 課題は第5回の対面講義時に配布し、第9回の対面講義の前日までに提出してください。 第3回 【オンデマンド3回目】複雑な四則演算、虫食い算 複雑な四則演算と虫食い算を学びます。 解説についてはGoogle Classroomの動画を参照してください。 課題は第9回の対面講義時に配布し、第13回の対面講義の前日までに提出してください。 第4回 【対面1回目】1次方程式、連立方程式、植木算 1次方程式と連立方程式と植木算を学びます。 課題は第2回の対面講義の前日までに提出してください。 第5回 【対面2回目】単位変換、割合、方陣算 単位変換と割合と方陣算を学びます。 課題は第3回の対面講義の前日までに提出してください。 第6回 【対面3回目】単位と割合、規則性 単位と割合と規則性を学びます。 課題は第4回の対面講義の前日までに提出してください。 第7回 【対面4回目】損益算、周期算 損益算と周期算を学びます。 課題は第5回の対面講義の前日までに提出してください。 第8回 【対面5回目】複雑な四則演算 複雑な四則演算を学びます。 課題は第6回の対面講義の前日までに提出してください。 第9回 【対面6回目】鶴亀算、平均 鶴亀算と平均を学びます。 課題は第7回の対面講義の前日までに提出してください。 第10回 【対面7回目】速さ 速さの問題を学びます。 課題は第8回の対面講義の前日までに提出してください。 第11回 【対面8回目】濃度 濃度の問題を学びます。 課題は第9回の対面講義の前日までに提出してください。 第12回 【対面9回目】仕事算 仕事算を学びます。 課題は第10回の対面講義の前日までに提出してください。 第13回 【対面10回目】場合の数（確率） 場合の数（確率）を学びます。 課題は第11回の対面講義の前日までに提出してください。 第14回 【対面11回目】実際の就職試験

	非言語分野の実際の就職試験問題を解いてみます。 課題は第12回の対面講義の前日までに提出してください。 【対面12回】テストセンター対策、最終確認試験 就職試験ではPCを用いた学力テストが課されることがありますが、その練習を行います。実際にPCを使用してテストセンターに近い状態で行いますので、PCを持参してください。 最終確認試験を実施し、成績判定を行います。
到達目標・基準 C評価になる基準	○C：与えられた課題を計画性を持って最後まで仕上げるができる。 ◎D：就職試験の非言語分野において、大半の問題を理解することができる。
事前・事後学習	事前学習 授業内容を予習する。(30分程度) 事後学習 前回の課題プリントの解き直しと各回の課題プリントを仕上げ、総合教養センターで検印をもらうまでしっかり取り組む。(60分程度) ※＜重要＞ 毎週、期限内に1F・総合教養センターへ課題を提出する。
指導方法	授業では毎回、課題を課すので、それを週内に提出する。希望者には自学用演習プリントを追加配布する。 ※課題に関する質問には個別に総合教養センターにて対応する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	講義課題を指定日までに提出し10点を獲得する。(遅れて提出した場合は5点) 14回までにすべて遅れずに提出すると140点満点となるが、100点以上獲得しないと単位修得とはならない。 評価については第15回の最終確認試験を50%、課題を50%としてその合計で判定する。 S評価：90%以上 A評価：80%以上 B評価：70%以上 C評価：60%以上
テキスト	テキスト：毎回プリントを配布する。
参考書	『2024最新版 史上最強SPI&テストセンター超実戦問題集』オフィス海著(ナツメ社)
履修上の注意	プリントの枚数が多くなるので、A4サイズの二穴バインダーにプリントをファイリングすること。また、そのバインダーは毎回期日までに提出すること。 ※やむを得ず授業を欠席した場合は、授業で配布したプリントを速やかに1F・総合教養センターまで取りに行き指示に従うこと。 ※学習内容の定着のために春期セミナーの受講を勧める。
アクティブ・ラーニング、PBL	e-learning教材、Google Classroom

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：選択
担当教員			
白川はるひ、村木桂子、澁木祥子			
ナンバリング：G12C05			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☒ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） 自らのキャリア形成を考えるための入門編的授業である。①卒業直後および1年前期の目標設定と、その目標にむけての計画実践およびふりかえり、②就職活動に向けての準備、③人生100年時代のキャリア設計という3つの柱で授業を組み立てる。 （授業目標） 社会情勢を客観的にとらえながら自分自身の生き方を多角的に考え、一生続くキャリア（＝生き方）選択の力を養う。 （学習成果） ◎B：社会情勢、労働、キャリア理論、社会人としてのあり方、および自己に対する理解を深め、卒業後の自らの生き方をより明確にすることで、自己の成長を目指して挑戦をすることができる。 ○C：自らの目標を明確に掲げて効果的な学びの計画を立て、その計画に基づいた実践と省察を繰り返すことができる。
----------------------------------	--

授業計画	1 授業ガイダンス（白川） および マナー講座（ゲスト講師） ・授業ガイダンス ・「キャリアデザイン」とは ・マナー講座：エレガントな立ち居振る舞い（ゲスト講師） 2 就職活動に関して1（キャリアセンター） ・就職活動の流れ ・就職活動関連サイトについて 3 目標の立て方（全授業担当者）（グループワーク） ・社会が求める力 ・目標設定の仕方 4 自己分析1（白川）（オンデマンド講座） ・自己分析ワークシートの作成 5 自己分析2（全授業担当者）（グループワーク） ・自己分析グループワーク（第4週で作成したワークシートを使用） ・キャリア理論 6 セルフマネジメント（全授業担当者）（グループワーク） ・タイムマネジメント ・セルフコーチング 7 企業で働くということ（ゲスト講師） ・企業人女性の働き方、生き方、価値観を知る 8 人生100年時代の生き方1（白川）（オンデマンド講座） ・キャリア理論 ・人生100年時代の自分の生き方を考え、ワークシートを作成する 9 人生100年時代の生き方2（全授業担当者）（グループワーク） ・人生100年時代の生き方についてのグループワーク（第8週で作成したワークシートを使用） 10 マナー講座（ゲスト講師） ・コミュニケーションの達人を目指す 11 インターンシップとは（キャリアセンター）、就職試験とは（白川） ・インターンシップについて理解する ・就職試験の概要を理解する 12 インターンシップ説明会（キャリアセンター） ・インターンシップについて具体的に考える 13 履歴書の書き方（キャリアセンター） ・優れた履歴書を書くためには 14 前期の省察と今後のキャリア計画1（白川）（オンデマンド講座） ・前期の省察と今後のキャリア計画のワークシートを作成する 15 前期の省察と今後のキャリア計画2（全授業担当者）（グループワーク） ・前期の省察と今後のキャリア計画についてのグループワーク（第14週で作成したワークシート）
------	---

	を使用) ・キャリア理論
到達目標・基準 C評価になる基準	◎B：社会の現状や業界、自分自身に関する理解を深めて目標をたて、自分なりの工夫をしながら目標達成に向けて取り組むことができる。 ○C：目標にむけた計画書を作成し、その実践結果を省察することができる。
事前・事後学習	事前学習 ・配布された課題文の読みこみ あるいは ワークシートへの書きこみ (30分) 事後学習 ・自らたてた行動計画の見直し、また、実践に関してのふりかえり (30分) ・授業内で指示された事後課題 (確認テスト、ふりかえり、ワークシートなど) への取り組み (30分)
指導方法	授業は主に、講義、個人ワーク、グループワークで進める。個人ワークを行ったうえでのグループワークになることが多いため、個人ワークにしっかり取り組むことが必要となる。 授業で学び、考え、目標に向かって計画をたてて実行し、それらをふりかえって次の授業に臨むという一連の流れを通して、自身に関する発見と探究をするPBL型授業でもある。 キャリアセンター職員による説明、ゲスト講師による講義などの週もある。 フィードバックの方法： 提出物に対しては、必要に応じ全体講評を通してフィードバックする。質問には適宜応じる。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎B：最終課題、提出物、授業貢献度によって評価する ○C：最終課題、提出物、授業貢献度によって評価する 最終課題30% 平常点70% (提出物60%、授業への貢献度10%)
テキスト	無し。適宜プリントを配布する。
参考書	『PROGの強化書』 ※オリエンテーション時に配布されます。授業中に使用しますので、指示があるときには持参すること 大宮登 著『理論と実践で自己決定力を伸ばす キャリアデザイン講座 第3版』日経PB社, 2019 村山昇 著『働き方の哲学』ディスカヴァー・トゥエンティワン, 2018 藤村博之 編『考える力を高めるキャリアデザイン入門』有斐閣, 2021 岩上真珠, 大槻奈診 著『大学生のためのキャリアデザイン入門』有斐閣, 2014 鈴木義幸 著『理想の自分をつくる セルフトーク マネジメント 入門』ディスカヴァー・トゥエンティワン, 2021 他
履修上の注意	・グループワークの多い授業である。履修者全員の力が伸びるよう、協力的に参加すること。 ・3週分のオンデマンド講座がある。指示通りに課題の提出を行うこと。 ・学科別に各教室で受講する週、全学科同時にホールで受講する週がある。連絡をしっかりと確認し、集合場所をまちがえないようにすること。 ・各自ファイルを用意し、ワークシートなどは保存しておくこと。最終課題作成時だけでなく、後期の就職活動の準備のときにも活用できる。
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、グループ内プレゼンテーション、PBL型授業

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	総合：選択
担当教員			
橋本之克			
ナンバリング：G12C06	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 「行動経済学」は心理学の要素を取り入れた新しい経済学の分野であり、人間が無意識に行う不合理な判断や行動を解明するものだ。人間心理を把握すれば、自分自身や周囲の人の行動をより良い方向に導くことができる。既に現実社会において、社会問題やビジネス課題の解決に活用されている。本講座では行動経済学の基本である、不合理な判断や行動のパターンをについて理解する。その知識をふまえて現実の課題解決における活用方法を考えていく。 (授業目標) 行動経済学とは何か、不合理な行動の基本的なパターンを理解し、不合理な行動を避け、より良い行動を促すことができる。 (学習成果：S評価になる基準) ○C：消費、学習、仕事などさまざまな行動における不合理さに関する課題を把握し、将来における不合理な行動を予測し、より良い行動を促す方法を考えられる。 ◎D：消費、学習、仕事などさまざまな行動における不合理な判断や行動のパターンの背景や原因に関して、行動経済学の法則を用いて説明できる。
----------------------------------	--

授業計画	1 全体概要の解説／行動経済学とは何か 行動経済学の歴史、経済学との違い、人間のとらえ方、行動経済学を学ぶメリットを理解する。 ※対面での講義を予定 2 ナッジ ナッジの提唱者と基本的な考え方、環境問題、健康問題など現実社会での活用事例を理解する。 ※対面での講義を予定 3 ヒューリスティック① 短時間で手近な結論で判断を下す「ヒューリスティック」および関連する主な理論、これらを証明した実験や研究について理解する。 主な理論：「利用可能性ヒューリスティック」「代表性ヒューリスティック」等 ※対面での講義を予定 4 ヒューリスティック② 判断を左右する「ヒューリスティック」に関して主な理論、現実には起きている事例について理解する。 主な理論：「ハロー効果」「確証バイアス」「平均への回帰」等 ※対面での講義を予定 5 プロスペクト理論① 価値の変化と人の反応に関する「プロスペクト理論」に関連する主な理論、これらを証明した実験や研究について理解する。 主な理論：「損失回避」「保有効果」「現状維持バイアス」等 ※対面での講義を予定 6 プロスペクト理論② 損失を避けようとして、より大きな損失を生む「プロスペクト理論」に関して主な理論、現実には起きている事例について理解する。 主な理論：「イケア効果」「確実性効果」「保険文脈」等 ※対面での講義を予定 7 フレーミング① 対象の見せ方で見ると人の判断や選択が変わる「フレーミング」および関連する主な理論、これらを証明した実験や研究について理解する。 主な理論：「サンクコスト効果」「決定麻痺」等 ※対面での講義を予定 8 フレーミング② 人の見方を誘導し判断を狂わせる「フレーミング」に関して主な理論、現実には起きている事例について理解する。 主な理論：「ツァイガルニク効果」「ウィンザー効果」等 ※対面での講義を予定
------	---

	9 時間割引 手に入れるタイミングで価値が変わる「時間割引」および関連する主な理論、これらを証明した実験や研究、現実社会の事例について理解する。 主な理論：「現在志向バイアス」「上昇選好」等 ※対面での講義を予定 10 その他の行動経済学の法則① 「自分を高く評価したい」と考える人の判断に関する理論と、これらを証明した実験や研究について理解する。 主な理論：「認知的不協和」「コントロール幻想」「一貫性の原理」等 ※対面での講義を予定 11 その他の行動経済学の法則② 「他から良く評価されたい」と考える人の判断に関する理論と、これらを証明した実験や研究について理解する。 主な理論：「バーナム効果」「フォールスコンセンサス効果」「ピグマリオン効果」等 ※対面での講義を予定 12 その他の行動経済学の法則③ 「社会や周囲に合わせたい」と考える人の判断に関する理論と、これらを証明した実験や研究について理解する。 主な理論：「同調効果」「バンドワゴン効果」「準拠集団」等 ※対面での講義を予定 13 行動経済学に基づくマーケティング等の現象の解釈 現実社会においてビジネスの成否を左右する心理的バイアスの事例と、成功や失敗の要因を理解する。 事例：ソーシャルゲーム、ネットオークション、ボイ活 等 ※オンデマンド動画での受講を予定 14 行動経済学における法則の総復習① 行動経済学の法則に関する理解度を確認する小テスト、および解説。 ※オンデマンドでの回答、解説はオンライン動画で実施予定 15 行動経済学における法則の総復習② 行動経済学の法則に関する理解度を確認する小テスト、および解説。 ※オンデマンドでの回答、解説はオンライン動画で実施予定
到達目標・基準 C評価になる基準	○C：消費、学習、仕事などさまざまな行動における不合理さに関する現状を認識し、課題として定めることができる。 ◎D：消費、学習、仕事などさまざまな行動における不合理さに関して関心を持ち、自ら学び理解を深めることができる。
事前・事後学習	事前学習として、日常的に「不合理な行動」がないか注意を払い、課題認識する。（事前90分程度） 事後学習として、講義内容をふまえて不合理な判断や行動のパターンについて、自ら理解内容を確認する。課題が出た際は期限に合わせて作成や提出を行う。（事後90分程度）
指導方法	講義によるインプットを中心に行う。毎回詳細なカラーの資料を用意して、テーマに対する関心を持つよう促す。口頭での解説のみではなく、「不合理さ」に関連した動画を用意し多様な手法で理解を促す。理解度を測る確認テストを都度行う。小テストおよびその解説によって理論の理解を深める。 フィードバックの仕方：直後から事後までさまざまなタイミングで、理解度を高める資料提供等、複数の方法により行う。授業中に数回にわたり質問の有無を尋ねる、メールやクラスルームでの質問を受け付けるなど、理解不足を補う体制を維持する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○C：小テストの結果に対する評価を中心に不合理さへの対応に関する理解度や対応力を評価する。 ◎D：授業ごとに都度行う確認テストを中心に行動経済学の基本に関する理解度を評価する。 都度行う確認テスト40%、小テストの結果 30%、授業態度・貢献度30%
テキスト	基本的に毎回の講義において、文章や図、静止画や動画などを配布または共有する。マイクロソフトのパワーポイント、またはPDFのデータを閲覧および保存できるパソコンを推奨。代替手段としてスマホは必携。
参考書	特になし。適宜、Web閲覧を求める。
履修上の注意	人間心理に対する好奇心や関心をもっていることが必要。 パソコン推奨。代替手段としてスマホは必携。 受講者の人数、問題意識の程度により、授業計画が一部変更される場合がある。
アクティブ・ラー ニング、PBL	個人ワーク、Googleを用いたワークなど様々な形で、受講者の人数、教室の構造などの状況に応じて適宜行う。

講義科目名称： 情報リテラシー

 授業コード： 4221 4222 4223 4224
 4225 4226 4227 4228
 4229 4230

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：必修
担当教員			
江原数彦、野地実穂、大澤康太郎、今成優子			
ナンバリング：G12A07			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 現代社会のあらゆる職業において、パソコンとインターネットの活用が求められていると言っても過言ではない。 本授業ではメール、インターネット、キーボードタイピング、ワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトといった一般的に社会人に必要とされている技術を初歩から学ぶ。 さらに昨今多発しているコンピューター犯罪などのインターネットに関するトラブルから身を守る為の術を身につけることも本授業の目的である。 (授業目標) 本授業で得た知識と技術を元に、パソコンで授業の課題作成ができるようになるだけでなく、将来社会に出た時にスマートフォンと同じように使いこなせるようになる。 (学習成果) ☐ D：他の科目におけるレポートや発表資料・分析資料を、本授業にて身につけた技術を応用して作成することができる。他者に教えることができる。 ☒ E：講義で学んだことを、素早く、かつ正確に作り上げることができる。
授業計画	1 4/16 ガイダンス ・授業の目的と他科目との関連性 ・パソコン ハード面の取り扱い注意事項 ・タッチパッド/マウス操作 ・必要アプリ（ソフト）の確認 ・マイクロソフトアカウントについて ・フォルダ管理 ・アクティブポータルの操作方法 2 4/23 学習アプリ（ソフト）の理解 1 ・Classroomへの参加確認 ・課題データのダウンロード ・課題の確認と提出方法 ・Gmailの操作方法（基礎機能/メール上のマナー/署名の作成） ・Gmail送信課題（★） ・Googleドライブとは（管理の仕方：フォルダ作成・データアップロード・ダウンロード） ・教室のプリンタ接続 3 4/30 【オンデマンド授業】情報セキュリティ ・あなたのスマートフォンの安全管理について ・メールによる詐欺について詳しくなる ・パスワード管理について知識を深め、危機に備える ・問題を解いて、知識を確認する 4 5/7 学習アプリ（ソフト）の理解 2 ・情報セキュリティの振り返り ・Gmailの使用方法（メールのタグ付け/メールの振り分け/添付データの付け方） ・Googleカレンダーの使用方法（予定の入力/クラスルームとの連動/他者を予定に招待する/他者のカレンダーを共有する/削除する） ・課題提出（★） 5 5/14 Microsoft PowerPoint 1 ソフトの役割と基本操作を習得する ・基本操作1-1 文字入力 ・基本操作1-2 図形の挿入と活用 ・基本操作1-3 写真の挿入と活用 課題提出 6 5/21 Microsoft PowerPoint 2 魅力ある資料を作成するための操作を習得する ・基本機能2-1 アニメーションの設定 ・基本機能2-2 スライドショーの設定 課題提出

7	5/28	Microsoft PowerPoint 3 プレゼン資料作成上の注意事項を知り、安心かつ効果のあるプレゼン資料を作る知識を習得する ・基本知識1 資料の共有 ・基本知識2 プレゼン資料作成知識 ・基本知識3 フォントの種類とインストール ・基本知識4 フォントの画像化 ・基本知識5 ユニバーサルデザイン知識
8	5/28	課題提出 (★) 【オンデマンド授業】Google SlideとGoogle Documentの役割と基本操作方法 ・Google Slideの役割 ・パワーポイントとの相違点 ・Google Documnetの役割 ・ワードとの相違点 ・共有データの操作体験
9	6/4	課題提出 Microsoft Word 1 基本操作を習得して、ビジネス文書を作成する ・基本操作1-1 文字の入力 ・基本操作1-2 段落設定 ・基本操作1-3 文字の編集 ・基本操作1-4 表の作成
10	6/11	課題提出 Microsoft Word 2 基本操作を習得して、アカデミックレポートを作成する ・基本操作2-1 章立て（見出し）の設定 ・基本操作2-2 画像の挿入と編集 ・基本操作2-3 行頭記号と行頭番号 ・基本操作2-4 段落設定 ・基本操作2-5 目次の設定
11	6/18	課題提出 Microsoft Word 3 多くの文書事例に触れ、基本操作を確実なものにする
12	6/25	課題提出 ビジネス文書形式の課題 (★) レポート形式の課題 (★) Microsoft Excel 1 基本操作を習得して、表の作成と計算式を覚える ・基本操作1-1 文字や数字の入力 ・基本操作1-1 計算式の入力 ・基本操作1-1 オートフィル機能 ・基本操作1-1 罫線やセルの装飾や編集 Googleスプレッドシートについて知る ・機能の紹介 ・エクセルとスプレッドシートの互換性
13	7/2	課題提出 Microsoft Excel 2 基礎関数について理解を深める。 SUM/AVERAGE/COUNT/MAX/IF/COUNTIF/SUMIF 課題提出
14	7/9	第15回（オンデマンド授業）に向けての準備と説明 アンケートに回答する Microsoft Excel 3 基礎関数の復習を行う。 グラフを活用して、数値の視覚的情報伝達方法について理解する ・基本機能3-1 グラフ作成 ・基本機能3-2 グラフの編集 課題提出 次回オンデマンドの案内
15	7/16	提出物についての最終確認 【オンデマンド授業】Microsoft Excel 4 第13回授業で集められた「アンケート回答データ」を編集し、データの分析を行う ・ピックデータの扱い方 ・抽出・並べ替え ・グラフの作成 Excel総合課題提出 (★)
到達目標・基準 C評価になる基準		○D：授業で学んだパソコンの基礎技術や知識を元に、目的に応じてアレンジできる。 ◎E：講義で学んだことを、その場で操作技術として再現し、望まれた結果を出すことができる。

事前・事後学習	事前学習：シラバスを参考に、次回使用するアプリケーションについて各自学習する。特に新しいアプリケーションを使用する回の前には、自宅のPCで該当するアプリケーションが正しく起動するかを必ず確かめる。(30分) 日々のニュース、特にネットワークやセキュリティに関する情報をチェックする。(30分) 事後学習：課題演習の多い授業である。苦手なアプリケーションの操作は次週までに克服するよう各自学習する。必要に応じてタッチタイピングの練習も行うこと。(30分)
指導方法	対面授業では、スライド資料と講義で演習を進める。 毎回、講義の内容を元に、様々な課題が課され、その提出が義務付けられる。 文書作成はMS-Word、表計算はMS-Excel、プレゼンテーションはMS-PowerPointによる制作作業を行う。 同様にGoogle Document、Spreadsheet、Slideについての存在を知り、マイクロソフト社各ソフトとの違いも理解できるようにする。 オンデマンド授業では、動画や資料を基に、知識を身につけ、同時にパソコンの操作についても学習し、課題に取り組めるよう指導する。 対面・オンデマンド授業両方とも、スキルを磨くだけでなく、用途に応じた配慮ができるよう、考える力も同時に養っていくよう指導する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	毎回提出される課題に対するパソコンでの演習結果（提出されたもの）を主な評価対象とするが、授業への参加姿勢や支援姿勢も評価の対象となる。なお、授業計画表の★印が付いている課題は、評価上においても特に重要度が高い課題である。 ○D：用途別にアレンジできるかを評価する。教室内で困っている学生に対する支援姿勢も評価の対象とする。 ◎E：基礎的な成果物を正確に作る事ができるかを評価する。 授業時の課題の取り組みと完成品の提出 80%（特別な理由のない対面時の欠席による事後提出は不可。オンデマンド時は期限までの提出のみ可。期限後の提出不可。） 積極的、かつ協力的に授業に参加している 20%
テキスト	授業内で適宜必要な資料を配布する。
参考書	講義内で適宜紹介する。
履修上の注意	毎回、パソコンおよびスマートフォンを使用した演習となるので、忘れずに携帯のこと。 パソコンに対する苦手意識がある人は、マウスを用意すること。 1回でも欠席すると、その後ついていくのが大変なため、休まないようにすること。
アクティブ・ラーニング、PBL	一部の場面で協働学習を行う。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
今成優子			
ナンバリング：G12C08（1年生）	ナンバリング：G13C11（2年生）		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 表計算ソフトを使用する職業は非常に多く、その操作スキルは社会で求められるものである。 本授業では、代表的な表計算ソフトであるExcelの資格であるマイクロソフト オフィス スペシャリスト(MOS)の出題範囲に沿って学習を行う。 問題形式、解答方法など合格に必要な知識を身に付けると共に、取得の意義を理解し、自分の学習計画を着実に実行できる自律的な実践力を養う。 (授業目標) ・MOS Excel合格かそれと同等の表計算ソフトの実践的なスキルを身に付ける。 ・目的達成に必要な学習を自己調整して、自発的に学習するスキルを身につける。 (学習成果) ◎C：資格合格を目標に、自ら学習計画を立て、修正・自己調整しながら実行でき、MOS合格を実現できる力を身につける。 ○E：表計算ソフトの機能や操作方法を理解し、目的や要求に応じた操作が行え、練習問題以外の場面でも活用できる力を身につける。
----------------------------------	---

授業計画	1 ガイダンス／ワークシートやブックの管理（1） 1-2-1 ブック内のデータを検索する、置換する 1-2-2 名前付きのセル、セル範囲、ブックの要素へ移動する 1-2-3 ハイパーリンクを挿入する、削除する 補足1 ズーム機能を利用して表示倍率を変更する 補足2 既存のブックにワークシートを追加する 補足3 データをコピーする、移動する 2 ワークシートやブックの管理（2） 1-3-1 ページ設定を変更する 1-3-2 ヘッダーやフッターをカスタマイズする 1-3-3 行の高さやの幅を調整する 1-4-1 シートを異なるビューで表示する、変更する 1-4-2 ワークシートの行や列を固定する 1-4-3 ウィンドウの表示を変更する 3 ワークシートやブックの管理（3） 1-4-4 ブックの基本的なプロパティを変更する 1-4-5 数式を表示する 1-4-6 クイックアクセスツールバーを管理する 1-5-1 印刷設定を行う 1-5-2 印刷範囲を設定する 1-5-3 別のファイル形式でブックを保存する 4 ワークシートやブックの管理（4） 1-5-4 ブック内の問題を検査して問題を修正する 1-4-5 コメントとメモを管理する 1-1-1 テキストファイルからデータをインポートする 1-1-2 オンラインソースからのデータをインポートする 5 セルやセル範囲のデータの管理（1） 2-1-1 形式を選択してデータを張り付ける 2-1-2 複数の行や列を挿入する 2-1-3 セルを挿入する、削除する 2-1-4 オートフィル機能を使ってセルにデータを入力する 2-1-5 RANDBTWEEN関数とSEQUENCEを使用して数値データを生成する 6 セルやセル範囲のデータの管理（2） 2-2-1 セルの配置、文字列の方向、インデントを変更する 2-2-2 セル内のテキストを折り返して表示する 2-2-3 セルを結合する、セルの結合を解除する 2-2-4 数値の書式を適用する 2-2-5 ≪セル書式設定≫ダイアログボックスからセルの書式を適用する 2-2-6 書式のコピー／貼り付け機能を使用してセルに書式を設定する 2-2-7 セルのスタイルを適用する
------	--

	7 2-2-8 セルの書式設定をクリアする セルやセル範囲のデータの管理（3） 2-2-9 複数のシートをグループ化して書式設定する 2-3-1 名前付き範囲を定義する 2-3-2 名前付き範囲を参照する 2-4-1 スパークラインを挿入する 2-4-2 組み込み条件付き書式を適用する 2-4-3 条件付き書式を削除する 8 テーブルとテーブルのデータの管理（1） 3-1-1 セル範囲からExcelのテーブルを作成する 3-1-2 テーブルにスタイルを適用する 3-1-3 テーブルをセル範囲に変換する 3-2-1 テーブルに行や列を追加する、削除する 3-2-2 テーブルスタイルのオプションを設定する 3-2-3 集計行を挿入する、設定する 3-3-1 複数の列でデータを並べ替える 3-3-2 レコードをフィルターする 9 数式や関数を使用した演算の実行（1） 4-1-1 セルの相対参照、絶対参照、複合参照を追加する 4-1-2 数式の中で構造化参照を追加する 4-2-1 SUM、AVERAGE、MAX、MIN関数を使用して計算を行う 4-2-2 COUNT、COUNTA、COUNTBLANK関数を使用してセルの数を数える 10 数式や関数を使用した演算の実行（2） 4-3-1 RIGHT、LEFT、MID関数を使用して文字の書式を設定する 4-3-2 UPPER、LOWER、LEN関数を使用して文字の書式を設定する 4-3-3 CONCAT、TEXTJOIN関数を使用して文字の書式を設定する 11 グラフの管理（1） 5-1-1 グラフを作成する 5-1-2 グラフシートを作成する 5-2-1 ソースデータの行と列を切り替える 5-2-2 グラフにデータ範囲（系列）を追加する 5-2-3 グラフの要素を追加する、変更する 補足4 シート名を変更する 補足5 シート見出しの色を変更する 補足6 シートを移動する、コピーする 12 グラフの管理（2） 5-3-1 グラフのレイアウトを適用する 5-3-2 グラフのスタイルを適用する 5-3-3 アクセシビリティ向上のため、グラフに代替テキストを追加する 補足7 ブックにテーマを適用する 13 【オンデマンド授業】試験対策講座（1）（ICT：デジタル教材による模擬試験） ・模擬試験プログラムの使い方 ・MOSの試験形式や攻略ポイントの説明 14 【オンデマンド授業】試験対策講座（2）（ICT：デジタル教材による模擬試験） ・第1回模擬試験の実施とポイント解説 15 【オンデマンド授業】試験対策講座（3）（ICT：デジタル教材による模擬試験） ・第2回模擬試験の実施とポイント解説
到達目標・基準 C評価になる基準	◎C：資格合格を目標に、自ら学習計画を立て、修正・自己調整しながら実行できる。 ○E：表計算ソフトの機能や操作方法を理解し、目的や要求に応じた操作が行える。
事前・事後学習	・事前学習： 授業計画内の1-2-2などの表記はテキストの章番号である。事前学習の参考にすること。 なお、試験対策講座で複数回にわたって最終課題を行う。最終課題の内容はMOSの模擬試験問題に準ずるものとなっている。出題範囲は事前に明確になっているため、試験対策講座の授業回を待たず、充分な事前学習による高得点の獲得を期待する。（30分） ・事後学習： 授業内で正答できなかった問題は事後学習で各自補完する。（30分）テキストの各出題範囲1～出題範囲5の巻末の確認問題で復習する。
指導方法	パソコンを操作する実習が中心である。12回までは講師と共に行う操作練習、13回以降は個別演習形式で進め、デジタル教材によるMOSの模擬試験を用いた実践演習を行う。 フィードバックの方法：対面授業時は、不明点等の質問は、教室にて対応する。オンデマンド時は、classroomのコメント機能等を使って対応し、操作上の疑問解決を受講者と共有をする。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎C：決められた範囲の課題を正しく処理し、期限内に提出すること ○E：適宜提示する、教科書以外の課題にも取り組み、様々なパターンの問題に対応できるようになること 課題提出 80%（特別な理由なき欠席においての事後提出は不可。オンデマンド課題においては期限内提出を以て出席とし、期限後の提出は不可となる） 授業参加度 20%
テキスト	よくわかるマスターMicrosoft Office Specialist Microsoft Excel 365 対策テキスト& 問題集（FOM出版）
参考書	
履修上の注意	「情報リテラシー」履修済みか、同等以上のコンピュータ操作技能があることが履修の前提となる。 自身のPC持参が必要であり、さらに「Office 2021 日本語版」または「Microsoft 365 日本語版」がインストールされている必要がある。 本授業では、Windows対応ソフトでの学習となるため、Macの場合は多少不便さがあることを理解した上で受講すること。またテキストに付随してダウンロードができる模擬試験問題システムはWindowsのみで作動する。

	MOSを受講する学生は別途MOS試験の受験料が必要（個別申し込み）。
アクティブ・ラーニング、PBL	自己調整学習

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
大久保成			
ナンバリング：G12C09（1年生）	ナンバリング：G13C12（2年生）		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ■A：他者と協力して共に創り上げる力 ■B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 □C：目標と計画を立てて課題を解決する力 □D：知識を活かして考える力 □E：学んで理解する力
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） 「スマホをとことん使い倒す」ことを目標に、スマホとPCの連携、生成AIの活用を通して、動画制作やWeb制作におけるクリエイティブな体験を提供します。できることを組み合わせて（プリコラージュ）複雑なものを組み上げていきましょう。 （授業目標） 動画制作およびウェブサイト制作等を題材に、デジタル創作を行い、デジタルコミュニケーション能力の向上を目指します。 （学習成果） ◎A：スマートホンや映像編集ツールを使いこなし、受講生同士協力して、求められている課題全てを提出することができる。 ○B：第三者にも分かるように自らの感性を言語化し、セルフプロデュースの一環としてウェブ版のポートフォリオを完成させることができる。
授業計画	1 ガイダンス 講義内容、講義の進め方などの説明、使用が予定されるアプリの設定 2 テンプレート機能を使う 事前に用意されたテンプレートを使い、動画編集アプリの操作に慣れる 3 カット編集 映像編集の基本であるカット編集を実践 4 トランジションとエフェクト トランジション（切替効果）や特殊効果を紹介 5 BGMと編集 BGMに合わせた編集。読み上げ機能 6 課題発表（1） 提出課題の発表、講評【オンデマンドを予定】 7 絵コンテ（1） 絵コンテ通り撮影・編集する 8 絵コンテ（2） 絵コンテ通り撮影・編集する（役割を交代する） 9 音楽生成 音楽用の生成AIを使ってみる 10 画像・動画生成 様々なツールと動画編集を組み合わせる 11 課題発表（2）、作品制作 字コンテを作る。「シネマティック」な動画を制作する【オンデマンドを予定】 12 ウェブサイト構築（1） Googleサイトの基本編集方法を学ぶ 13 ウェブサイト構築（2） ウェブサイトをポートフォリオとして活用できるように充実させる【オンデマンドを予定】 14 まとめ(1)、講評 担当教員による講評、講義のまとめ 15 まとめ(2)、サポート 作品発表の続き、サポート回
到達目標・基準 C評価になる基準	◎A：動画作品を一定数以上公開することができる。 ○B：動画をまとめたウェブサイトを作成することができる。

事前・事後学習	【事前学習】 動画系SNSを巡回し、トレンドを学ぶ。次回講義の準備（提案）をする。（1時間） 【事後学習】 毎回、課題が課せられる。課題の作品を完成させ、公表する。（2時間）
指導方法	講義はパワーポイントを使用します。 Googleクラスルーム等を用いて、教室の内外での積極的な参加を促します。デジタルツールを用いることで、人前で発表するのが苦手な学生でも、積極的に講義に参加できるようになると期待しています。また講師からのフィードバックもデジタルツール上で行い、配慮を要する個別の質疑以外は、クラス内で情報共有できるようにします。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎A：作品の公開数を評価します。 ◎B：動画作品をまとめたウェブサイトの完成を必須とし、その内容を評価します。 【成績評価の方法】 筆記試験なし：課題提出による評価 【評価の基準】 動画課題の提出：50%、授業態度：30%、ポートフォリオサイトの作成/提出：20%
テキスト	独自資料をもちいます。希望に応じて可能な範囲で講義資料を共有します。
参考書	講義内で必要に応じ提示します。
履修上の注意	【必読】「顔出し」やSNS投稿に抵抗のある方の受講はお勧めしません。 自分自身を被写体として使う実習があるからです。TikTokやYouTubeなどを利用することもあり、また制作された作品はすべて教室で上映されます。 【その他注意事項】PCの持参、スマホの持参が必須です。 両者がないと講義の受講ができません。SNSへのサインイン、アプリの導入を行います。アプリ等はできる限り無料の範囲で活用できるように配慮します。ペアレンタルコントロールなどは外しておいて下さい。スマホのバックアップ手段を必ず確保して下さい。学外で撮影することもあると思います。通信容量も可能な限り確保しましょう。
アクティブ・ラーニング、PBL	PBL型授業、グループワーク、PCとスマホを使った演習

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	総合：選択
担当教員			
江原数彦			
ナンバリング：G13C13			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☒ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力		
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） Microsoft社のPowerPointやWordの中級レベル機能を紹介しながら、既存のビジネス文書作成方法にとらわれることなく、自由なレイアウトを行い、魅力的で楽しい販売促進ツールを制作する授業。授業ではPowerPoint・Wordの操作だけでなく、わかりやすくインパクトのある広告を制作するビジュアルデザインの手法・知識も学べるよう進めていく。 （授業目標） 提示された課題を元に、ソフトの中でも特に図形やワードアート等の操作機能や効果を重点的に習得する。さらに習得した技術を生かしながら、読み手に情報が伝わりやすいレイアウト方法を理解し実践できるようになることをめざす。 （学修成果） ◎B：授業で得た技術を活用しながら、提示された課題の指示に従い、バランスの取れた作品を仕上げるができる。 ○D：自身でレイアウトを考え、自分の設計通りに、情報が伝わりやすい作品を仕上げるができる。		
授業計画	1	9/18	授業の目的やデザインの役割を理解する。／ポートフォリオ用のサイトを構築する。 ・授業の目的や受け方、評価の仕方等を理解する ・目的に適したレイアウトがあることを理解する ・ポートフォリオをまとめるGoogleサイトの構築を行う
	2	9/25	文字と図形で、グリーティングカードをデザインしよう<Power Point> ・フォントに関する知識を身に付ける ・フォントのダウンロードを体験する ・テキストボックスの活用方法を知る ・図形内の文字編集機能を習得する ・図形内のグラデーション塗りつぶし機能を習得する ・課題作成
	3	10/2	文字を自由に使って、ポスターを作ろう①<Power Point> ・フォントのダウンロードを体験する ・写真文字の作成方法を知り、文字の視覚的効果を高める技能を習得する ・課題作成
	4	10/2	【オンデマンド授業】文字の使い方に詳しくなろう<Power Point> ・文字の種類や使用目的における文字の効果の違いを理論的に学ぶ ・オンデマンド授業に対するレポート課題に取り組む
	5	10/9	文字を自由に使って、ポスターを作ろう②<Power Point> ・フォントのダウンロードを自在に行う ・図形と文字と写真を使ってポスターを作成し、レイアウト感覚を養う。 ・課題作成
	6	10/16	図形機能を駆使して、ポスターを作ろう①<Power Point> ・図形の結合機能（PowerPoint）を習得し、遊び感のある文字を作成する ・図形の中に、写真を配置する機能を習得する ・課題作成
	7	10/16	【オンデマンド授業】図形機能を駆使して、ポスターを作ろう②<Power Point> ・図形機能を駆使して、ポスターを作ろう①で習得した技術を使って、新しい課題に取り組み、スキルアップを狙う ・指示に従って課題作品を提出する
	8	10/23	図形機能を使って地図を作成しよう<Power Point> ・図形機能を活用し、地図を作成する技術を習得する
	9	10/30	<自由課題制作>ポスター制作<Power Point> 自分のアルバイト先、あるいは就職予定先の商品やサービス、あるいは戸板女子短期大学のキャンパスライフを伝える、ポスターをPowerPointで作成する。 ここまでに習得した機能を積極的に使うことを必須課題項目とする
	10	11/6	WORDで、簡単な読み物チラシを作成しよう<Word> ・写真の挿入とそのレイアウトアレンジ技術を習得する ・テキストボックスをリンクさせる技術を習得する ・課題作成

	11 11/13 見開きの雑誌ページを作成しよう①<Word> ・A3見開きページのページ設定の技術を習得する ・写真や文字を自由に配置する技術を習得する ・課題作成 12 11/20 見開きの雑誌ページを作成しよう②<Word> ・A3見開きページの雑誌風ページを作成する技術をより高める ・行間設定や段落設定に詳しくなる ・課題作成 13 11/20 【オンデマンド授業】最終課題に取り組む① ・自分の好きなもの・こと・場所・人」あるいは「思い出に残った体験」に関する雑誌の記事を作成する、という課題に対しての理解を促進する。 ・上記の素材を集め、保存する。 ・必要な記事の文言・文章を作成する。 14 11/27 最終授業に取り組む② ・最終課題に取り組む 15 12/4 最終課題に取り組む、提出する③ ・最終課題に取り組む、提出する。 ・ポートフォリオをまとめ直す
到達目標・基準 C評価になる基準	◎B：授業を通して習得した技術を組み合わせ、目標としたレイアウトをPowerPoint/Wordで形に仕上げることができる。 ○D：視覚に訴えかけるレイアウト法について理解し、制作作品に活用することができる。
事前・事後学習	事前学習：街中で見かけるポスターをチェックし、レイアウトの良い点と悪い点を考え、メモに残しておく。（30分程度） 事後学習：自分の制作した作品が、指示通りにできているかチェックをし、できていない部分に関しては修正を行う。（30分程度）
指導方法	制作する作品テーマごとにWordの機能を紹介し、課題作品を制作することによって、自身で自由に操作できるよう指導する。制作して作品に関しては提出し、指導教員の添削を入れ、フィードバックする。フィードバックされたものは自身で修正し、再提出することで、操作や知識の習得を狙う。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎B：毎時の課題提出物を評価する。 ○D：自由課題での作品を評価する。 毎時の課題提出：70% 自由課題：30%
テキスト	毎時プリントを配布するため、A4サイズのプリントがファイリングできる「ファイル」を用意しておくこと（クリアファイルは不可）。
参考書	特になし。
履修上の注意	将来PowerPoint/Wordを仕事上で活用したいと考えている学生、グラフィックデザインに興味がある学生に向いている。なお、PowerPoint/Wordの基礎操作知識（文字入力・段落設定・図形の作成・表の作成）があることを前提とする。 また毎時の課題提出が学習はもちろん、成績の基本となるため、毎回出席する意志を持つこと。特別な理由がある場合を除き、締め切り後の課題提出や、欠席した回の課題の後日提出は認めない（特別な理由がある場合は、事前に連絡を入れること）。
アクティブ・ラーニング、PBL	実技型授業（一部課題解決型学習を含む）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
森田翔			
ナンバリング：G13C10（1年生）	ナンバリング：G14C14（2年生）	実務家教員による授業	授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒D：知識を活かして考える力 ☐E：学んで理解する力
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） プレゼンテーションの3大要素である「プレゼンス（人間力：誰が伝えるか）」「シナリオ（構成力：何を伝えるか）」「デリバリー（伝達力：どのように伝えるか）」の基礎を学び、社会人として身に付けるべき人間関係の原則について実体験を伴って理解する。 （授業目標） 誰にでも再現可能な型として体系的にスキルを習得することで、自信が身に付き、人前で話すことが好きになり、社会人として即戦力の人材を育成する。 （学習成果） ◎C：人の心を動かし、具体的な行動に繋げて、周囲に影響力を発揮することができる ○D：習得したスキルを単なる知識に留めるのではなく、状況に応じて的確に活用することができる
授業計画	1 講座の内容と進め方 ・プレゼンテーションの基本原則 ・人の心をつかむ話し方 ・現状と理想の明確化 2 成長が早い人と成長が遅い人の違い（オンデマンド） ・なぜ人は変わらないのか ・最短最速で成果を出すための3つの思考 ・思考が変われば、人生が変わる 3 選ばれる自己紹介の作り方 ・自己分析 ・キャッチフレーズ ・鉄板の1分自己紹介 4 興味を引く伝え方 ・当事者意識 ・問題意識 ・理想意識 ・プロセス意識 5 感情を揺さぶる伝え方 ・ゴールデンサークル理論 ・ギャップ ・宣言効果 6 緊張のコントロール方法（オンデマンド） ・緊張は敵か味方か ・緊張の正体 ・科学的根拠に基づく対処法 7 論理的で分かりやすい伝え方 ・ホールパート法 ・PREP法 ・ピラミッドストラクチャー 8 説得力を持たせる伝え方 ・対比 ・事例 ・社会的証明 9 人を動かす伝え方 ・ビジョン ・ストーリーテリング ・神話の法則 10 パワーポイント資料の作り方（オンデマンド） ・構成フェーズ ・作成フェーズ ・スライドのルール 11 成果が上がる事前準備の方法 ・返報性の法則 ・想定問答

	12 ・最終発表会の準備 最終発表会の予選会 参加人数が25名以上の場合は予選会を実施し、最終発表会の登壇者を決定する 13 最終発表会1日目（戸板ホール） 学習成果を発表する 14 最終発表会2日目（戸板ホール） 学習成果を発表する 15 最終発表会3日目（戸板ホール） 学習成果を発表する
到達目標・基準 C評価になる基準	◎C：プレゼンテーションの目的を理解し、情報をわかりやすく伝えて、想いを表現することができる ○D：目的を達成するための手段を理解し、適切な手順で資料を作成して、発表することができる
事前・事後学習	事前学習：前回の授業内容を復習する（30分） 事後学習：毎回の授業課題に取り組む（30分）
指導方法	授業の進行は基本的にパワーポイントを使用し、形式は一方的な講義でなく積極的な実践を多く取り入れる。 インプット→アウトプット→フィードバックを繰り返すことで、スキルを「知っている」状態から「できる」状態にする。 質疑応答の時間を十分にとり、可能な限り不明な点や不安な気持ちを解消する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎C：授業での個人発表、グループ発表、および授業課題の撮影動画から総合的に評価する。 ○D：授業課題の発表原稿、発表スライド、およびレポートから総合的に評価する。 期末試験に代替する発表会40%、授業での発表および授業課題40%、授業態度および貢献度20%
テキスト	専用テキスト（書名：未定、著者：森田翔、出版社：翔泳社、出版年：2025年6月頃、ISBN：未定）有り。 加えて、適宜プリントを配布する。
参考書	なし。
履修上の注意	一般的にプレゼンテーションスキルは個人差が大きいとされるが、自分と他人を比較して落ち込む必要はまったくなく、自分の特徴を理解してそれを磨くことで、誰もが聞き手に強力な印象を与える唯一無二の話手になることができる。各自が現状の課題と理想の状態を明確にして、主体的に目標達成を目指してほしい。また、ビジネス現場において圧倒的に結果を出し続けている人は、インプットよりアウトプットを重視している。失敗を前向きに捉えて、発表を恥ずかしがらず、積極的に挑戦してほしい。楽ができる単位ではないが、プレゼンが得意な人も苦手な人も大きく成長することができる。真剣に受講すれば、一生役に立つ実力が手に入ることを約束する。この授業は、経営者や事業家などのプロフェッショナルを対象にプレゼンテーションの指導を行っている日本つかみ協会の講師により行われる。
アクティブ・ラー ニング、PBL	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、PBL型授業

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
小野田奈穂			
ナンバリング：G13C11（1年生）	ナンバリング：G14C15（2年生）	実務家教員による授業	授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ■A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ■D：知識を活かして考える力 ☐E：学んで理解する力
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業概要） 心理学は、人の心のはたらきを研究する学問であり、学習心理学・発達心理学・性格心理学・社会心理学・臨床心理学等、多様な領域にわたる。多様な領域の中から、学生の関心が高く、また学生と関わりが深いと思われるテーマを選び、そのテーマについての理論や概念を学ぶ。日常生活に関連するような内容も含まれているので、各自考えを深め、生活の中で応用できるように具体的な例を多く出しながら講義をすすめる。 （授業目標） 日常生活の様々な物事や感情を心理学の視点から捉え、理解すること。 （学習成果） ☐A：対人関係にまつわる心理学の理論を通じて、人の話を聴き、自分の考えを上手に伝える力を身につけることができる。 ☐D：日常生活における様々な物事について新しい視点を知ること、物事を多面的に深く考え行動できる力を身につけることができる。
授業計画	1 オリエンテーション【対面】 心理学とはどのような学問か？ 2 動機付け【対面】 “やる気”のこころの働きを知る（PBL） 3 感覚・知覚・認知【対面】 人はどのように環境や情報を捉えているのか 4 発達【対面】 人の発達を学ぶ（青年期特有の心理発達を中心に） 5 対人関係と恋愛心理【対面】 心理学の視点から対人関係と恋愛について考える 6 対人関係とコミュニケーション①【対面】 自分の気持ちを上手に伝える方法を考える（PBL） 7 社会の中の心理【対面】 人の態度（考え・評価）が変わるときとは 8 集団の心理【対面】 集団の力で起こる心理を学ぶ 9 ストレスの心理学【対面】 ストレスの仕組みと対処を考える 10 心理療法から学ぶ【対面】 捉え方の工夫を学ぶ（PBL） 11 勉強を頑張るコツ【対面】 勉強を頑張るコツを心理学の視点から考える 12 対人関係とコミュニケーション②【対面】 人の話を上手に聴く方法を考える 13 マインドフルネス【オンデマンド】 マインドフルネスの考え方から心のほぐし方を学ぶ ・第3回の授業週までに動画配信します。各自動画視聴をして学びワークに取り組んでください。 課題提出の確認で出席とします。（提出締切日は授業内で指定） 14 性格【オンデマンド】 「人生の木」から見つめなおす ・第3回の授業週までに動画配信します。各自動画視聴をして学びワークに取り組んでください。 課題提出の確認で出席とします。（提出締切日は授業内で指定） 15 心理テスト体験と最終レポート課題説明【オンデマンド】 学んだことを生活に取り入れ身につける

	・第3回の授業週までに動画配信します。各自動画視聴をして学びワークに取り組んでください。 課題提出の確認で出席とします。（提出締切日は授業内で指定）
到達目標・基準 C評価になる基準	○A：実際の対人関係の場において、上手なコミュニケーションのための工夫を取り入れて応用できる。 ◎D：日常生活で当たり前として考えることのなかったような物事にも違う視点があるということを知り、視野を広げて捉え行動することができる。
事前・事後学習	事前学習：生活の中で生じる疑問や相談したいような気がかりなことについて意識して考えてみる。（90分） 事後学習：自身の生活に照らし合わせながら、講義の内容を振り返る。日常生活に取り入れられそうなことを実践してみる。（90分）
指導方法	授業は原則として、プロジェクターを使用し、パワーポイントや図表等を示し、それに沿った講義を行う。また、心理学という学問を体験的に理解できるよう、ワークシートを使って日常生活に応用できるよう練習する。講義終了時に、毎回コメントペーパーを書かせ、疑問の解消や講義のふりかえりと整理を行えるようにする フィードバックの方法：コメントペーパーに書かれた疑問点や質問には次の回で全体に向けて回答、または学生に問いかけて解決していく。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○A：受講態度（コメントペーパー含む）とレポート課題を評価する。 ◎D：受講態度（コメントペーパー含む）とレポート課題を評価する。 レポート課題70% 受講態度（コメントペーパー含む）30%
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考書	『心理学』 東京大学出版会 『心理学の基礎 改訂版』 培風館
履修上の注意	他者の心理を読み取る術や他者を操作する方法などは心理学の学問ではないことを理解して受講すること（講義内容にもこのような内容は含まれていない）。 心理学は、それぞれが自身の体験に引き付けながら学ぶことにより一層関心を持てる学問であるので、積極的に学ぶ姿勢を持って講義に参加することがのぞましい。
アクティブ・ラー ニング、PBL	PBL型授業

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
村木桂子			
ナンバリング：G13C12（1年生）	ナンバリング：G14C16（2年生）	実務家教員による授業	授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒D：知識を活かして考える力 ☒E：学んで理解する力
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） この授業では文学を単に読解するのではなく芸術として全体を鑑賞する。芸術に触発されてものごとの本質に触れることの奥深さ、喜びを味わい、心ふるえる経験を積み重ねることにより、生涯を通じて形成される教養・価値観・感性などの基盤づくりを目指す。 （授業目標） 芸術によって呼び起こされた“未だ知り得ない自分”を感じとり、それを表出することによって「自分にとってかけがえのないものとは何か」を探り、自己、また他者との向き合い方を見つめなおす。 （学習成果） ○D：授業で得た知識を理解し、興味を持ったことがらについて主体的に情報を得、学びを深めることができる。 ◎E：授業で学び得たことについて味わい感じたことを、自分なりの言葉を用いて表現することができる。
授業計画	1 オリエンテーション、芸術と出会うということ【対面】 授業内容、授業の進めかた、評価方法に関する説明 教材を踏まえたグループディスカッション ICT：パソコン、スマートフォン（双方向型授業、自主学習に活用） 2 彫刻：船越保武／神谷美恵子『生きがいについて』【対面】 美しさとは何か、生きがいとは何か ICT：パソコン、スマートフォン（双方向型授業、自主学習に活用） 3 絵本『てぶくろを買いに』『泣いたあかおに』『おにたのぼうし』【対面】 異文化理解・相互理解 ICT：パソコン、スマートフォン（双方向型授業、自主学習に活用） 4 シェイクスピア『ロミオとジュリエット』【対面】 人と共有することによってはじめて開かれる世界 ICT：パソコン、スマートフォン（双方向型授業、自主学習に活用） 5 ミヒャエル・エンデ『モモ』【対面】 あなたが、あなたらしくなるための「星の時間」 ICT：パソコン、スマートフォン（双方向型授業、自主学習に活用） 6 ペスト、十牛図【対面】 不条理と向き合うこと ICT：パソコン、スマートフォン（双方向型授業、自主学習に活用） 7 東山魁夷という文学【対面】 あちらとこちらの世界をつなぐもの ICT：パソコン、スマートフォン（双方向型授業、自主学習に活用） 8 サンテグジュペリ『星の王子さま』【対面】 危機に瀕したときはじめて見えてくるもの ICT：パソコン、スマートフォン（双方向型授業、自主学習に活用） 9 モーツァルト(1)【オンデマンド】 それぞれの夢へのアプローチ ICT：パソコン、スマートフォン（双方向型授業、自主学習に活用） 10 モーツァルト(2)【オンデマンド】 ほんとうの幸い ICT：パソコン、スマートフォン（双方向型授業、自主学習に活用） 11 モーツァルト(3)【オンデマンド】 思いどおりにならないとき ICT：パソコン、スマートフォン（双方向型授業、自主学習に活用） 12 時代を超えて変わるもの、変わらないもの【対面】 人がその人自身になるとき ICT：パソコン、スマートフォン（双方向型授業、自主学習に活用） 13 世界から見た日本の美意識（1）【対面】 東洋と西洋の比較（絵画を中心に） 14 世界から見た日本の美意識（2）【対面】 絵と文字の交わり（絵画、工芸）

	15 世界からみた日本の美意識（3）【対面】 現在の我々の生活とのつながり
到達目標・基準 C評価になる基準	○D：授業で得た知識を理解し、興味を持ったことがらについて人に伝えることができる。 ◎E：授業で学び得たことについて味わい感じたことを、表現することができる。
事前・事後学習	事前学習：日ごろから美術、音楽、文学などジャンルを問わずさまざまな芸術と出会う機会を持つ。（60分程度） 事後学習：授業で学んだことがらの要点をおさえ、ノートや資料を整理し理解を深める。（60分程度） 授業中に紹介された本や資料を読み、芸術一般についての興味・関心を広げる。（60分程度）
指導方法	すぐれた芸術作品に触れ、演習（グループディスカッション、ペアワーク）を踏まえたリアクションを毎回書くことにより、自分が感得したものと丁寧に向き合う。正解よりも思考を深めることを重視する。パワーポイントを中心に講義をおこない、必要に応じて視聴覚教材も使用する。 フィードバックのしかた：課題の成果を授業中に共有し、講評する。質問には個別に対応する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○D：提出物、確認テストによって評価する。 ◎E：提出物、確認テストによって評価する。 確認テスト：60%、授業後の提出物：40%（総合的に評価する）
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考書	授業中に紹介する。
履修上の注意	個人で取り組む課題や意見を交換しながらの演習があるが、いずれも積極的な参加を期待する。授業中の演習参加と課題提出が重要であるため、課題は必ず提出すること。受講者の興味・関心等に応じて授業計画が一部変更される場合がある。
アクティブ・ラー ニング、PBL	ディスカッション、ペアワーク

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
村木桂子			
ナンバリング：G13C13（1年生）	ナンバリング：G14C17（2年生）	実務家教員による授業	授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） 国語力の四要素（話す・聞く・書く・読む）のトレーニングを総合的に積みあげるにより複眼的思考、論理的思考といった考えかたの基礎力を養い、専門科目の学びを深め、発展させることに役立てる。 （授業目標） ペアワーク等かかわりを通して課題に取り組むことによりコミュニケーション力を高め、社会で活用できる日本語の力を身につける。 （学習成果） ○D：受信した情報から取捨選択し要点をとらえ、意見をまとめ、根拠を提示しながら発信することができる。 ◎E：授業で学んだ日本語の知識について理解し、活用することができる。
----------------------------------	---

授業計画	1 敬語（ペア・ワーク）【対面】 授業内容、授業の進めかた、評価方法に関する説明 敬語について ICT：パソコン、スマートフォン（自主学習に活用） 2 感じの良い話しかた（ペア・ワーク）【対面】 コミュニケーションの基礎（日本語の音声） ICT：パソコン、スマートフォン（自主学習に活用） 3 手紙・メールの書きかた（ペア・ワーク）【対面】 コミュニケーションの基礎（文章表現、待遇表現） ICT：パソコン、スマートフォン（自主学習に活用） 4 母語の大切さ（ペア・ワーク）【対面】 外国語から見た日本語の特徴 ICT：パソコン、スマートフォン（自主学習に活用） 5 オノマトペ（ペア・ワーク）【対面】 豊かな言語生活のために ICT：パソコン、スマートフォン（自主学習に活用） 6 辞書のいろいろ（1）（ペア・ワーク）【オンデマンド】 辞書の特色について ICT：パソコン、スマートフォン（自主学習に活用） 7 辞書のいろいろ（2）（ペア・ワーク）【対面】 図書館での辞書比較 ICT：パソコン、スマートフォン（自主学習に活用） 8 説明のしかた（ペア・ワーク）【対面】 情報提示の順序を学ぶ論理的文章の書きかた（中級） ICT：パソコン、スマートフォン（自主学習に活用） 9 絵の分析（ペア・ワーク）【対面】 根拠ある意見の述べかた ICT：パソコン、スマートフォン（自主学習に活用） 10 テキスト分析（1）（ペア・ワーク）【オンデマンド】 論理的文章の書きかた（初級） ICT：パソコン、スマートフォン（自主学習に活用） 11 テキスト分析（2）（ペア・ワーク）【対面】 論理的文章の書きかた（中級） ICT：パソコン、スマートフォン（自主学習に活用） 12 話し言葉と書き言葉（ペア・ワーク）【対面】 社会人としての言語運用能力 ICT：パソコン、スマートフォン（自主学習に活用） 13 対義語（ペア・ワーク）【対面】 ニュアンスの違いを学ぶ ICT：パソコン、スマートフォン（自主学習に活用） 14 日本語の文字(1)（ペア・ワーク）【対面】 私たちが使用する文字の由来 ICT：パソコン、スマートフォン（自主学習に活用）
------	---

	15 日本 の文字(2)【オンデマンド】 私たちが使用する文字の由来(2) ICT：パソコン、スマートフォン（自主学習に活用）
到達目標・基準 C評価になる基準	○D：他者の言葉に耳を傾け、自分の意見を人に伝えることができる。 ◎E：授業で学んだ日本語の知識について理解し、使用することができる。
事前・事後学習	事前学習：日ごろからジャンルを問わずさまざまな本（活字）に触れ、多様な言葉の感覚を磨く。（60分程度） 事後学習：授業で学んだ日本語の知識について要点をおさえ、ノートや資料を整理し理解を深める。（30分程度） 授業中に紹介された本や資料を読み、日本語について興味・関心の幅を広げる。（30分程度）
指導方法	ペアワーク（対話）を中心として、正解よりも考えることを重視した授業を行う。テーマごとに口頭演習した内容を文章で再確認することにより、日本語コミュニケーション力を「話す・聞く・書く・読む」の観点から総合的に養う。講義は主にパワーポイントで進め、視聴覚教材も適宜利用する。 フィードバックのしかた：課題の成果を授業中に共有し、講評する。質問には個別に対応する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○D：ペアワークにおける聞く態度や、授業中の積極的な発言、提出物を評価する。 ◎E：確認テストによって評価する。 確認テスト60%、課題提出30%、授業参加態度10%（総合的に評価する）
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考書	授業中に紹介する。
履修上の注意	ペアワークや個人で取り組む課題があるが、いずれも積極的な参加を期待する。授業中の演習参加と課題提出が重要である。受講者の興味・関心等に応じて授業計画が一部変更される場合がある。
アクティブ・ラー ニング、PBL	ペアワーク、ディスカッション、PBL型授業

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：選択
担当教員			
景英淑			
ナンバリング：G13C14			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力		
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） 今日の韓国文化（K-pop、ドラマ、映画、食べ物、メイク、ファッション、社会など）をテーマに韓国人・韓国社会に対する理解を深める。また各々のテーマに関連する簡単な韓国語に触れ、ハングル文字と発音の基礎を身につける。ディスカッション、プレゼンテーション、講義の内容における発言のような積極的な参加をもとに授業を進行させる。 （授業目標） TV、SNSのようなメディアから発信される韓国文化の表面的なイメージにとどまらず、その裏に深く根付いている価値観や生活様式、文化を知る。それを基に日韓の文化の似通っている点や相違点について自分の見解が述べられる。他国、他者、多言語への理解力を高め、それを「自分の国を知る」、「自分自身を知る」ことへとつなげられる。 （学習成果） ○D：「韓国のことばと文化」の授業を通じて、型にはめられた概念ではなく自分の言葉で日韓文化の共通点や相違点について話し、自分の興味分野につなげられる。 ◎E：他国、他者に対する柔軟な視点や共感力を育成し、多言語に接することで自身の成長へとつなげられる。		
授業計画	1	ガイダンス及び講義の紹介 授業計画、グループ構成、成績評価方法案内 韓国文化におけるアンケート調査及び「韓国のことばと文化」を学ぶことの意義について	
	2	ドラマから見る韓国文化 「冬のソナタ」から「イカゲーム」まで韓国ドラマの進化と拡散について考える。 伝統的な遊びゲームを体験（「イカゲーム」）	
	3	映画から見る韓国文化 映画鑑賞—『ジブロ（おばあちゃんの家）』 過去と現代、少年とおばあさん、都会と田舎、現在の韓国と20年前の韓国など様々な二項の側面を考えながら鑑賞する。	
	4	ドラマと映画から考える韓国の家族像 『ジブロ（おばあちゃんの家）』についてのグループ発表 韓国の典型的な家族像や価値観と映画から読み取れる多様化する家族の形態と生活様式について考える。	
	5	K-popの歴史とアイドルの影響 G. O. DからBTS、New Jeansまで 韓国のオッパブデ（お兄さん部隊）と日本の推し活の類似点と差異、経済的な影響について考える。（PBL）	
	6	日韓の美意識と化粧 朝鮮時代の美人顔から考えて現代の美意識はどのように変わったのか。日本と韓国の美容・化粧の特徴と差異、またジェンダーと化粧について考える。（PBL）	
	7	韓国の若い世代のファッショントレンド 伝統的なハンボク（韓服）から現在の流行りの服装まで 日韓の流行っているファッションの特徴とその差異について考える。（PBL）	
	8	韓国の住居文化 ロゼの「アパート」から学ぶ韓国の住居スタイルの変遷 「ハンオク（韓屋）」、「マダン（庭）」、「オンドル」、「アパート」の機能と象徴的な意味について学ぶ。	
	9	韓国の食文化 韓国料理を紹介し、韓国の食卓作法について日本と比べながら学ぶ。「モッパン（食べる＋部屋）」の世界的な流行りの原因について考える。	
	10	小説から学ぶ韓国社会 ノーベル賞の受賞者であるハンガンの小説『少年が来る』、『別れを告げない』から見る韓国の民主主義について学ぶ。	
	11	韓国の習慣・価値観 「ウリ文化」、「情」、「兵役」、「大学入試試験」などから読み取れる習慣・風習及び韓国人の価値観について学ぶ。	

	12 韓国とツーリズム 韓国人の余暇の過ごし方は日本人と比べてどう違うか。 体験型、エンター型、グルメ型、探検型による韓国へのツアープランを立てて間接体験しよう。 (PBL) 13 韓国のことば① (オンデマンド) 世宗大王 (セジョンデワン) とハングルについて 韓国語の文字であるハングルの文字体系について学ぶ。 (『My First Korean』参照) 14 韓国のことば② (オンデマンド) ハングルの文字体系について学ぶ。 旅行に使える簡単な単語やフレーズを学ぶ。 (『My First Korean』参照) 15 講義のまとめ、理解度確認テスト (オンデマンド) 講義の総まとめと理解度確認テスト「筆記」
到達目標・基準 C評価になる基準	○D：韓国文化に関する基本的な知識を習得し、それを基に韓国文化について自分の意見が述べられ、説明できる。 ◎E：異文化を知ることは自分の文化の理解を深めることである点をおさえ、学んだことを自分自身の成長へとつなげる。また簡単なハングルの文字が読める。
事前・事後学習	事前学習：予告された授業テーマについて調べるなりあらかじめ考えてくる。(20分程度) 事後学習：資料やノートテイクした授業内容を整理し理解する。学んだハングル文字や簡単な表現は音を出しながら繰り返し練習して覚える。(30分程度)
指導方法	パワーポイント、映像、音声資料を使用して講義をする。グループ発表、体験授業、意見の発言などを取り入れ、一方通行的な授業ではなく学生が主体的に授業に関わるアクティブラーニングの形を取り入れる。 フィードバックの仕方：グループ対応または個別対応する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○D：グループワーク、プレゼンテーションを評価する。 ◎E：理解度確認テストで評価する。 グループワーク及びプレゼンテーション 40%、理解度確認テスト (筆記) 40%、授業態度・貢献度 20%
テキスト	適宜必要なプリント等の資料を配布する。 副教材として『My first Korean # 読みたいハングル』を使用する。
参考書	『My first Korean # 読みたいハングル』李志暎、DEKIRU出版、2019年
履修上の注意	韓国文化や言葉について興味を持ち、その両方に対する理解を深めたいと思う受講生の参加を歓迎します。ノートテイクできるようにノートを準備してください。(意見を求められたとき、または授業内容の理解力・記憶力・集中力の向上に役立ちます) グループワークやプレゼンテーション、発言などに積極的に参加してください。 やむを得ない事情以外は出席してください。 受講生の関心分野、進捗状況により、授業内容が一部変更される場合があります。
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション、PBL型授業

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
澁木祥子			
ナンバリング：G13C15（1年生）	ナンバリング：G14C18（2年生）		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ■A：他者と協力して共に創り上げる力 □B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 □C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ■D：知識を活かして考える力 □E：学んで理解する力
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 「健康」という大きなテーマの中から、現代社会が及ぼす心身への影響について重点をおきながら、自身の「健康」とは何かを探る授業とする。 (授業目標) 健康に関する知識を修得するとともに、グループワークを実施し、他者との意見交換を通して自身の考えを深める。 (学習成果) ○A：学生間のグループ討議を通して積極的に人と意見交換を通して、生涯に通ずる「健康」のあり方を自分自身で探ることができる。 ◎D：現代社会が及ぼす心身への影響についての知識を身につけることができる。
授業計画	1 ガイダンス・健康の定義（グループワーク：グループごとにまとめを発表）【対面】 目的、授業における留意点、成績評価、自分にとっての健康とは何か WHOによる健康の定義 2 身体と教育、現代社会と健康1【対面】 第二次世界大戦前～第二次世界大戦後～現代 日本の健康問題 3 現代社会と健康2（グループワーク：グループごとにまとめを発表）【対面】 世界の健康問題、環境と健康 4 現代社会におけるストレスと健康のかかわり1【対面】 身体の健康とメンタルヘルス 5 現代社会におけるストレスと健康のかかわり2【対面】 ストレスとストレスコーピング 6 人間関係【オンデマンド】 話す力と聞く力について考える 7 発達段階と健康1（グループワーク：グループごとにまとめを発表）【対面】 こどもの発育・発達、幼児期における運動の意義 こどもの成長と多様な経験の重要性 8 発達段階と健康2【対面】 成人における健康 健康と余暇活動を考える 9 発達段階と健康3（グループワーク：グループごとにまとめを発表）【対面】 高齢者における健康 10 ライフスタイルと健康【対面】 生体リズムと睡眠 11 自身のライフスタイルをふりかえる【オンデマンド】 自身の生活（ライフスタイル）を記録し、ふりかえりを行う ライフスタイルを通して気づいたことをまとめ、今後の自身の健康行動へつなげる 12 救急法【対面】 障害時の救急、災害時の対応 13 女性の健康（グループワーク：グループごとにまとめを発表）【対面】 女性の身体について 14 まとめ（1）【対面】 学習のふりかえり（1）、理解度確認テスト 15 まとめ（2）【オンデマンド】 学習のふりかえり（2） 生涯を通じて自分にとって健康とは何かを考える
到達目標・基準 C評価になる基準	○A：他者の意見を聴き、その上で自身の考えをまとめることができる。 ◎D：現代社会の課題について理解し、自身のライフスタイルと関連づけることができる。

事前・事後学習	事前学習：健康に関するニュースや本に眼を通すように心がける。（90分程度） 事後学習：授業で得た知識を一過性のもので終わらせないように、毎授業終了時にGoogleフォームを作成する。また、個人で配布した資料を整理し、実践していくようにこころがける。（90分程度）
指導方法	講義は基本的にパワーポイントを使用して進める。 適宜、グループワークを取り入れる。 意見交換を積極的に行う中で「健康とは何か」を自覚できるようにする。 フィードバックの仕方：Googleフォーム提出後、評価の上返却する。質問があった場合には、個別に対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	○A：グループ討議での態度、授業への貢献度を評価する。 ◎D：授業終了時のGoogleフォーム・レポート、確認テストを評価する。 確認テスト50%、授業終了時に提出するGoogleフォーム20%、レポート20%、受講態度10%、
テキスト	なし 必要な資料・プリントをその都度配布する。
参考書	「健康管理能力検定3級公式テキスト」 一般財団法人 全国健康管理能力検定協会 監修 「健康管理能力検定2級公式テキスト」 一般財団法人 全国健康管理能力検定協会 監修 「大学生のための最新健康・スポーツ科学」 日本大学文理学部体育学研究室 編 八千代出版 「健康・体力・スポーツ 大学生のための保健体育理論」 横浜保健体育理論研究会 編 学術図書出版 「人間関係づくりトレーニング」 星野欣生著 金子書房 「健康・運動の科学 介護と生活習慣病予防のための運動処方」 田口貞善監修 講談社 「新・生き方としての健康科学〔第二版〕」 山崎喜比古監修、朝倉隆司 編 有信堂高文社
履修上の注意	①自分にとっての健康とは何かを考えながら、積極的な姿勢で授業へ臨むこと。 ②グループワークの際は、履修者全員の力が伸びるよう、協力的に参加すること。 ③3週分のオンデマンド講座がある。指示通りに課題の提出を行うこと。
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、アクティブラーニング、PBL型授業

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	総合：選択
担当教員			
伊藤能之			
ナンバリング：G14C19			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） 子どもの発達段階を踏まえ、子どもの育ちを支えるために求められる知識と保育技術、保育・教育内容にかかわることを総合的に学ぶことである。 （授業目標） 授業のねらいは、子どもの遊びと成長について基礎的な知識を理解することである。 子どもの育ちにとって必要な知識や教材を説明し、教材を理解して使用することができる。 （学習成果） ◎D：子どもの発達の道筋を知り、子どもの成長を育むために必要な知識を修得できる。子どもの発達を学び、子どもに必要な関わりや現代の子育てを取り巻く問題について自分なりの考えをもつことができる。 ○E：保育教材の理解を通して豊かな感性を身に付けることができる。
授業計画	1 オリエンテーション 子どもの成長とは 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明 2 グローバル化と子ども グローバル社会における子どもの理解 3 胎児期と母親 子育て支援の事例から 胎児期と母親の子育て支援 4 乳幼児期の発達過程と遊び（オンデマンド） 乳幼児期の発達と子どもの遊びについて 5 子どもと言葉（オンデマンド） 子どもの言葉の発達から見る子どもの英語教育 6 保育教材について 子どもと一緒に楽しむことができる保育教材の製作 7 国際理解と教育・保育 ドイツの事例を通じた国際理解教育と保育 8 小学校への入学 就学前の保育から小学校への接続期について扱う。小学校に入学するまでに身につけたい力について概説する、また、小学校に入学する子どもの発達の特徴について、概説する。 9 児童期の教材について 小学校の児童を対象とした児童期における教材の製作 10 小学校低学年から高学年（オンデマンド） 小学校低学年から高学年の児童の発達の特徴について 11 現代社会を取り巻く子育てと保育 現代の子育てと保育を取り巻く現状と課題 12 子どもの遊び①：絵本の読み聞かせ 絵本の意義について理解を深めるため、実際にミニ絵本を製作する 13 子どもの遊び②：保育教材 保育教材について学び、実際に子どもが喜ぶおもちゃについて考える 14 多文化理解と子育て支援 多文化理解に視点を置いた地域子育て支援の実践 15 子どもの成長と多様な経験の重要性 子どもの成長と多様な経験やパースペクティブな考え方
到達目標・基準 C評価になる基準	◎D：子どもの発達段階を踏まえ、子どもにとって必要な環境や教材について理解することができる。 ○E：子どもの成長に必要な教材を使用した保育実践について、理解することができる。
事前・事後学習	事前学習：テキストの該当箇所を読み、保育や子育てに関する新聞やニュース、文献等をまとめておく。（100分） 事後学習：授業時に学習した箇所のテキストや内容を見直し、自分の考えをまとめる。課題が出された場合、課題に取り組む。（100分）

指導方法	子どもの成長を育むために必要な素地を身に付けるために、講義だけではなく、教材を使用した演習や映像等を活用しながら実践的に理解できるようにする。 課題の成果物に対し、個別にフィードバックする。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：筆記試験・レポートの記述内容を評価する。 ○E：授業内の演習発表を評価する。 筆記試験40%、レポート30%、授業への意欲30%で総合的に評価する。
テキスト	五十嵐淳子編著『国際関係の学びーグローバル社会の子どもの未来を見据えてー』大学図書出版、2021年
参考書	授業の際に紹介する
履修上の注意	自分自身が子どもの時に読み、思い出に残った絵本についての感想を書いてもらう予定です。
アクティブ・ラーニング、PBL	PBL型授業

講義科目名称： 世界の遺産

授業コード： 4161

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
中村公子（契約講師：鈴木かの子）			
ナンバリング：G13C16（1年生）	ナンバリング：G14C20（2年生）	実務家教員による授業	授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） 世界の有名な遺産100件と日本の遺産全件の中から、テキスト・スライド画像・動画を用いて講義します。古代遺跡やヨーロッパの建築、大自然の絶景や神話的な地域など、世界旅行の気分を味わいながら、世界遺産検定3級合格のためのポイントを学習します。 （授業目標） 「社会人に必要な知識や教養」の獲得を目指し、「知的関心」をもって学修する心構え、「異なる考え方や異なる文化を持つ人々」を理解する能力を身に付けます。 （学習成果） ☒ C：世界遺産を通して、「地球上の多様な価値観」を自ら学び理解を深めることができる。 ☒ C：世界の動きに対する関心を深め、批判の目と自分の意見を持てるようになる。 ☒ D：世界遺産検定3級レベル試験で80%以上の得点を取得することができる。
授業計画	1 世界遺産の基礎知識1【対面】 2 世界遺産の基礎知識2【対面】 3 日本の世界遺産1【対面】 4 世界遺産で取り組む探求(PBL)【オンデマンド】 5 日本の世界遺産2【対面】 6 日本の世界遺産3【対面】 7 世界遺産の基礎知識 日本の遺産 まとめ【オンデマンド】 8 世界の文化遺産1【対面】 9 世界遺産を訪れるツアー企画1(グループワーク、PBL)【対面】 10 世界遺産を訪れるツアー企画2(グループワーク、PBL)【対面】 11 世界の文化遺産2【対面】 12 世界の文化遺産3【対面】 13 検定直前確認テスト【オンデマンド】 14 世界の文化遺産4【対面】 15 世界の自然遺産 総まとめ【対面】
到達目標・基準 C評価になる基準	☒ C：世界遺産を通して、「地球上の多様な価値観」について基本的な理解を深めることができる。 ☒ C：世界の動きに対して、自ら学び理解を深めることができる。 ☒ D：世界遺産検定3級レベル試験において、十分な理解を示すことができる。
事前・事後学習	事前学習：講義テーマに対する、教科書の該当箇所を事前に読んでおく。（90分）

	事後学習：授業後には当日実施した内容を振り返り、知識を深める。（90分）
指導方法	指導方法： テキストとスライド画像、講義資料（プリント）を用いて、講義を進めます。 内容を理解しやすいよう、世界旅行をしているような気分を味わいながら、授業を進めます。 フィードバックの方法： リアクションペーパーを返却の際に総括のコメント、また質疑応答にてフィードバックをします。
アセスメント・成績評価の方法・基準	○C：「地球上の多様な価値観」を理解し、環境保全や国際平和の重要性を認識できているかを検定試験、あるいは検定に準じる試験で評価する。 ○C：世界の動きに関する自分の意見を発表し、それを評価する。 ◎D：検定試験、あるいは検定に準じる試験の結果を評価する。 検定試験、あるいは検定に準じる試験：60% 授業貢献度（自分の意見）：20% 検定試験直前確認テスト：20%
テキスト	きほんを学ぶ世界遺産100＜第5版＞ 世界遺産検定3級公式テキスト 世界遺産検定公式過去問題集3・4級＜2025年度版＞
参考書	
履修上の注意	世界遺産検定の申込方法は別途、授業で案内します。
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション、PBL型授業

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
吉田敏行			
ナンバリング：G13C17（1年生）	ナンバリング：G14C21（2年生）		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☒ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） 自分とは異なる考えや価値観を理解し受け入れることが異文化理解である。この授業ではそのきっかけとなるよう、世界の国々の歴史、文化、民族、習慣、宗教、食文化などについて学ぶ。そして日本と違う点も考えていく。さらに外国人とのコミュニケーションの助けとなるような簡単なあいさつをさまざまな言語で練習する。 （授業目標） ヨーロッパやアジアのさまざまな言語や文化や習慣、その歴史的背景を知り、日本との共通点や相違点、関係性を理解する。 （学習成果） ◎A：日本や外国の歴史、文化、言語、料理、世界遺産などの特徴を簡潔に話すことができる。講義形式の授業だが、質疑応答や発言を多く求めるので、積極的に授業に参加し、さらに学んだことに対して自分なりの意見を持つことができる。 ○D：各国の各国の各国の歴史文化や特徴を正しく理解し、グローバル化が進む現代を生きるために役立てることができる。将来の仕事などにその知識を活かすことができる。 E：外国人と接する機会の最初の会話のきっかけとなる簡単なあいさつや自己紹介ができる。外国人とお互いの国についてそれぞれの言語で話すことができる。
----------------------------------	--

授業計画	第1回 ヨーロッパの地理歴史概観 ヨーロッパの国々の地理や歴史について幅広く解説する。 第2回 フランスの言葉と文化 フランス語の簡単なあいさつとフランスの歴史文化を学ぶ。 第3回 オンデマンド「ヨーロッパの文化や歴史に関するレポート」 ヨーロッパの国々の歴史や文化について各自調べて、対面2回目の9月22日の授業で提出する。このレポートの提出によって第3回目の授業の出席とする。 第4回 スペイン、ポルトガルの言葉と文化 スペイン語、ポルトガル語の簡単なあいさつと歴史文化を学ぶ。 第5回 ドイツ、オーストリアの言葉と文化 ドイツ語の簡単なあいさつとドイツ、オーストリアなどドイツ語圏の歴史文化を学ぶ。 第6回 イタリアの言葉と文化 イタリアの簡単なあいさつと、イタリアの歴史文化を学ぶ。 第7回 オンデマンド「アジアの文化や歴史に関するレポート」 アジアの国々の歴史や文化について各自で調べて、次回の授業でレポートとして提出する。 第8回 中国の言葉と文化 中国語の簡単なあいさつと歴史文化を学ぶ。 第9回 朝鮮半島の言葉と文化 韓国語の簡単なあいさつと朝鮮半島の歴史文化を学ぶ。 第10回 タイの言葉と文化 タイ語の簡単なあいさつと歴史文化を学ぶ。 第11回 インドシナ半島の言葉と文化 ベトナム語の簡単なあいさつとベトナム、カンボジア、ラオスの歴史文化を学ぶ。 第12回 インドネシア、マレーシア、シンガポールの言葉と文化 インドネシア語の簡単なあいさつとインドネシアやマレー半島の歴史文化を学ぶ。 第13回 オンデマンド「中南米やアフリカの文化や歴史に関するレポート」 中南米やアフリカの国々の歴史や文化について各自で調べて、次回の授業でレポートとして提出する。 第14回 中南米の国々の歴史と文化、アフリカの歴史と文化 中南米の歴史文化を学ぶ、アフリカの歴史文化を学ぶ。 第15回 異文化理解まとめと総括
------	--

	世界の国々の歴史文化や宗教、風習、料理などをもう一度総復習し、日本文化と比較する。
到達目標・基準 C評価になる基準	◎A：日本や外国の歴史、文化、言語、料理、世界遺産などを知り、自分で調べたり知識を深めたりできる。 ○D：各国の各国の各国の歴史文化や特徴を正しく理解し日本との違いを考えることができる。 E：外国人と接する機会の最初の会話のきっかけとなる簡単なあいさつができる。
事前・事後学習	事前学習：授業で扱う地域や国の基礎知識を事前に得ておくため、書籍、雑誌、インターネットの資料を読んだり、世界遺産や旅行の動画を見たりして準備をする。（90分） 事後学習：授業内で配布された資料などをもとに、学んだことを自分なりにまとめておく。（90分）
指導方法	9月15日の初回の対面授業で課題を提示する。翌週の第二回目の対面授業の時に各自調べてきたことをレポート形式で提出してもらう。これを第三回目のオンデマンド授業の出席及び評価とする。 それ以降のことは授業中に指示するが、それぞれ学習する地域が変わるごとにオンデマンド授業とし、予習をして対面授業にのぞんでもらう。 毎回の授業の導入としては最初に扱う国の言語でのあいさつを紹介し、そこから文化、歴史へのアプローチをしていく。 フィードバックの方法：授業の最後に、学んだ事柄や自分の印象などを各自レポートに書いて提出してもらい、添削とコメントをして次回返却する
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎A：提出してもらうレポートにより他者との関わりあいの中で、どの点にどれくらい理解したか、興味を持ったかを判断する（50%） ○D：講座で学んだことの復習として授業中の小テストにおいて評価する（DとEで50%） E：各言語で学んだことをどの程度理解して覚えているか授業中の小テストにおいて評価する
テキスト	授業で配布するプリント 理解を深めるためにDVDなども使用する
参考書	専門書籍に関しては授業内でも紹介するが、日本及び外国に関するものならばすべて、ガイドブックや写真集なども参考書として読んでもらいたい
履修上の注意	少しでも日本や外国の歴史、文化、言語、料理、世界遺産などに興味がある学生ならば積極的に受講してほしい。講義形式の授業であるが、質疑応答や発言を多く求めるので、積極的に授業に参加できる学生が望ましい。
アクティブ・ラー ニング、PBL	ディスカッション、グループワーク、PBL型学習

講義科目名称： 女性と社会

授業コード： 4171

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
白川はるひ			
ナンバリング：G13C18（1年生）	ナンバリング：G14C22（2年生）		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ■A：他者と協力して共に創り上げる力 □B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 □C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ■D：知識を活かして考える力 □E：学んで理解する力
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） 日本でみられる女性をめぐる諸課題を切り口に、そこから立ち現れる現代社会の問題や特質、それらの原因や関連性を検討し、その解決策および今を生きる当事者である自分がどのように考え行動していくべきかについて思索し発表する、全15週を通してのPBL型授業である。 （授業目標） ひとりの社会構成者として、社会への問題意識と参画意識を持ち、持論を提示できるようになること。 （学習成果） ○A：チーム全員の理解度が高まるように、主体的、建設的に意見交換することができる。 ◎D：授業で扱う課題を自分事ととらえて理解し、現状説明、有効な解決策の提示、自らとるべき行動などを論理的に説明することができる。 授業で扱う課題やその他の社会的課題、社会の特質等の情報を見極め、複数の因果関係の仮説を立てることができる。
授業計画	1 授業ガイダンス、ジェンダーギャップとは ・ガイダンス（授業内容、授業目標、評価方法に関する説明、諸注意） ・ジェンダーギャップとは ・資料の読み取りと授業方法の説明 2 日本の抱えるジェンダーギャップ問題を概観する（グループワーク） ・現代日本社会でみられる女性をめぐる課題をひとつ取り出し、原因を検討する 3 女性と貧困1（ディスカッション） ・女性の貧困に関連する課題文を読み、現状と課題について、個別ワーク及びグループ学習をする 4 女性と貧困2（ディスカッション） ・女性の貧困の現状と課題等について、ディスカッション、グループ発表、補足説明 5 女性と仕事・育児1（オンデマンド学習） ・女性の労働や育児に関する現状と課題について、指示にしたがって授業課題に取り組み提出する 6 女性と仕事・育児2（グループワーク） ・各自が作成した提出物をもとに、グループ学習をする 7 女性と仕事・育児3（ディスカッション） ・女性の労働・育児の現状と課題について、発表、ディスカッション、補足説明 8 女性と教育・政治1（オンデマンド学習） ・女性の教育や政治に関する現状と課題について、指示にしたがって授業課題に取り組み提出する 9 女性と教育・政治2（グループワーク） ・各自が作成した提出物をもとに、グループ学習をする 10 女性と教育・政治3（ディスカッション） ・女性の教育や政治に関する現状と課題について、発表、ディスカッション、補足説明 11 諸課題の関連性を考える（グループワーク） ・授業で扱ってきた諸課題の関連性を検討する 12 ニュースから考えるジェンダーギャップ（グループワーク） ・最近のニュースからジェンダーギャップに関する問題を検討する 13 よりよい社会を目指して1（グループワーク） ・日本社会でみられるジェンダーギャップに関してひとつテーマを絞り、各自の考える解決策提示などについて意見交換する 14 よりよい社会を目指して2（オンデマンド学習） ・これまで学んだことを活用し、指示にしたがって授業課題に取り組み提出する 15 まとめ（ディスカッション） ・これまで学んだことの総復習（確認テストとフィードバック含む）とディスカッション

到達目標・基準 C評価になる基準	○A：自らの意見を筋道をたてて伝えとともに、チーム内で決められた自らの役割を遂行しながら授業に参加できる。 ◎D：提示された社会課題について、既習事項や自分の経験、客観的資料などと関連づけながら自らの意見を伝えることができる。 授業で扱う課題同士の関連性について、因果関係の仮説を図示することができる。
事前・事後学習	事前学習： ・毎日のニュースをチェックし、テーマに関係することはメモして授業に臨む（70分） 事後学習： ・重要な用語の復習（20分） ・授業内容に関連する資料をさらに調べたり身近な人と意見交換したりしながら自分の考えを深め、指定文字数で自分の意見をまとめる（90分）
指導方法	授業は主に一つのテーマにつき次の流れで学びながら理解を深めていく。①各自での課題文の読み込み・資料調べ・ワークシート作成 ②グループ内でのディスカッション ③全体での発表 ④補足説明 ⑤問いづくり ⑥意見のまとめとシェア。 本授業は15週を通してのPBL型授業となるため、最終的には、授業で扱ったテーマのなかから1つを選び、プレゼンテーションにて解決策の提示等を各自が行う。 フィードバックの方法： ・ディスカッション、プレゼンテーションについては、学生同士の相互フィードバックおよび教員からのコメントにて行う。 ・提出物については、クラス全体に対して教室あるいはGoogle Classroom上にて行う。 ・必要に応じて個々にコメントする。 ・Web上での確認テストは、受験後に正解を提示する。 ・必要に応じてルーブリックを活用しながらフィードバックを行う。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○A：提出物、授業貢献度にて評価する。 ◎D：提出物、プレゼンテーション、確認テストにて評価する。 確認テスト30% 提出物35%、プレゼンテーション25%、授業貢献度10% ※プレゼンテーションは必ず実施すること。
テキスト	なし。適宜プリント教材を配布する。
参考書	伊藤公雄他『ジェンダーで学ぶ社会学 第4版』世界思想社, 2025 中野円佳『教育にひそむジェンダー』筑摩書房, 2024 加藤秀一『はじめてのジェンダー論』有斐閣ストゥディア, 2017 治部れんげ『「男女格差後進国」の衝撃 無意識のジェンダー・バイアスを克服する』小学館新書, 2020 前田健太郎『女性のいない民主主義』岩波新書, 2019 他
履修上の注意	テーマごとの課題文（平均3000字程度の文章の予定）の読み込みに充分取り組んでこそそのディスカッションとなるため、それを心得て履修すること。
アクティブ・ラーニング、PBL	PBL型授業、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
大澤康太郎			
ナンバリング：G13C19（1年生）	ナンバリング：G14C24（2年生）		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） 環境問題は文系・理系の垣根を超えた幅広い問題意識に関わる。本授業では、地質学などの自然科学的な話題から環境に対応する市民活動などの社会的な話題までを横断的に扱い、近年企業や行政も喫緊の取り組みを求められている「環境問題」とその対策の全体像をつかむことを目指す。 （授業目標） 地球環境というさまざまな分野がかかわる、また正答が一つに定まりづらい問題について学習することを通して、現代社会を生きていくためのリテラシーと資質を涵養する。 （学習成果） ◎C：環境問題の複雑さを十分に理解したうえで、自分なりの解決法を考え、言語化することができる。 ○D：環境問題の原理となる自然法則・社会制度を十分に理解し、相互に矛盾のない環境問題対策を考えることができる。
----------------------------------	--

授業計画	1 ガイダンス 環境学というさまざまな視点の混在する対象について、学び方を考える。 2 「循環」を通して地球を考える 循環という視点で地球環境について理解する。 3 生命が居住可能な惑星とは？ 星や太陽系の惑星の知識を修得し、生命が存在するのに必要な条件を考える。（グループワーク） 4 地球の歴史と探り方 地質学の方法論を用いて地球46億年の歴史を辿る。 5 【オンデマンド】気候変動 地球が抱える環境問題の結果として引き起こされている「気候変動」について理解する。 6 生物多様性の喪失 生物多様性の喪失とその影響、人間社会の対応について理解する。 7 SDGs 地球上の様々な問題に対応するべく制定されているSDGsに関する理解を深める。 8 エネルギー問題 再生可能エネルギーを中心に、エネルギーと環境の関係性を理解する。（グループワーク） 9 プラスチックごみの問題 プラスチックごみがもたらしている環境への影響について理解する。 10 【オンデマンド・フィールドワーク】芝公園の環境について調べる 芝公園に出かけ、環境について考える。 11 【オンデマンド】レジリエントな社会 「レジリエント」をキーワードに、環境問題に対応する方法について考える。（グループワーク） 12 環境にかかわる法律 環境にかかわる法律についての知識を得る。 13 環境問題とテクノロジー 先端技術と環境問題の関わり合いについて知識を得る。 14 環境に対する市民の活動 事例紹介を基に、環境問題に対応する市民活動について知る。（グループワーク） 15 環境問題のまとめ / 最終課題評価とフィードバック 授業全体のまとめを行う。
------	--

到達目標・基準 C評価になる基準	◎C：環境問題の複雑さを理解し、多面的に考え、自分なりの解決方法を提案できる。 ○D：環境に関わる社会制度・自然法則を理解し、環境問題の解決策を例示できる。
事前・事後学習	事前学習：プリントを読み関連のある箇所を読む(90分程度) 事後学習：配布されたプリントを復習し、演習問題を再度解く(90分程度)
指導方法	配布するプリントや、パワーポイント等を使用して講義を進める。

	また、適宜グループワークを行う。 フィードバックの仕方：プリント返却時に指導する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎C：毎回の授業課題を評価する。 ○D：毎回の授業課題を評価する。 授業内課題90% 授業態度10%
テキスト	なし
参考書	適宜指示する
履修上の注意	授業内容は受講生の興味や教材、時事的話題によって変更することがある。 また、天候により一部の授業の順番を入れ替えることもある。
アクティブ・ラー ニング、PBL	PBL型授業、グループ発表、フィールドワーク

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
澁木祥子			
ナンバリング：G14C20（1年生）	ナンバリング：G15C25（2年生）		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ■A：他者と協力して共に創り上げる力 □B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 □C：目標と計画を立てて課題を解決する力 □D：知識を活かして考える力 ■E：学んで理解する力		
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 球技種目（バドミントン、ソフトバレーボール、卓球、ニュースポーツ）の基礎技術を取得し、ゲームを行う。 (授業目標) 運動を通して、日常生活に必要な基礎体力をつける習慣を身につけるために、ストレッチとエクササイズを継続して実施し、自身の体調の変化に気がつくようにする。ゲームを通して、他者と協働することの意義や楽しさを体得できるようにする。 (学習成果) ◎A：ゲーム実施の際、自身の役割を理解し、チームに貢献することで責任感を養うことができる。 ○E：球技種目（バドミントン、ソフトバレーボール、卓球、ニュースポーツ）の基礎技術を修得することができる。		
授業計画	1	ガイダンス（グループワーク：自己紹介）・球技①基礎（実習：ドッジボール）【対面】 目的、授業における留意点、評価方法の説明、自己紹介 ストレッチ、ドッジボール（基礎練習）	
	2	ニュースポーツとは・・・【オンデマンド】 ニュースポーツの意義、特徴 ニュースポーツをひとつ取り上げ、分析する	
	3	ニュースポーツ①基礎・球技②基礎（実習：ドッジビー、バドミントン1）【対面】 ストレッチ、バドミントン（基礎練習）	
	4	球技②応用（実習：バドミントン2）【対面】 ストレッチ、バドミントン（ゲーム）	
	5	球技③基礎（実習：ソフトバレーボール1）【対面】 ストレッチ、ソフトバレーボール（基礎練習） パラリンピック競技について	
	6	球技③応用（実習：ソフトバレーボール2）【対面】 ストレッチ、ソフトバレーボール（ゲーム） シッティングバレーボール（ゲーム）	
	7	ニュースポーツ①基礎（実習：ボッチャ）【対面】 ストレッチ、ボッチャ（基礎練習、ゲーム） アダプテッド・スポーツについて	
	8	ニュースポーツ②基礎（実習：インディアカ1）【対面】 ストレッチ、インディアカ（基礎練習）	
	9	ニュースポーツ②応用（実習：インディアカ2）【対面】 ストレッチ、インディアカ（ゲーム）	
	10	ニュースポーツ③基礎（実習：ユニホック）【対面】 ストレッチ、ユニホック（基礎練習、ゲーム）	
	11	球技④基礎（実習：ポートボール）【対面】 ストレッチ、ポートボール（基礎練習、ゲーム）	
	12	球技⑤基礎（実習：卓球）【対面】 ストレッチ、卓球（基礎、ゲーム）	
	13	オリンピック、パラリンピックについて【オンデマンド】 パラリンピック競技をひとつ取り上げ、分析する	
	14	ニュースポーツ④基礎（実習：キンボール）【対面】 ストレッチ、キンボール（基礎練習、ゲーム）	
	15	生涯スポーツ【オンデマンド】 生涯スポーツの意義と役割を考える	
到達目標・基準 C評価になる基準	◎A：チーム内においての自身の役割を見つけ参加することができる。 ○E：ルールにのっとり、楽しくスポーツすることができる。		

事前・事後学習	事前学習：次週の授業までに日常生活の中でスポーツに関するニュースや書籍に目を通すようにする。（30分程度） 事後学習：スポーツする楽しさと意義を感じ、日常生活の中にスポーツすることを取り込んでいくようにする。（30分程度）
指導方法	実技演習 ①準備運動としてストレッチやエクササイズを行い、その日の体調を確認する。 ②各々のスポーツ種目の基礎技術を練習し修得する。 ③ゲームのルールを説明した後、ゲームを行う。ゲームを楽しむ中で、スポーツを楽しむためには何が必要かを考えさせる。 フィードバックの仕方：実技と技能カードやGoogleフォームでの感想を総合的に評価し、授業時に返却する。 質問があった場合には、個別に対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎A：ゲーム中においてチームにおける貢献度と受講態度、また技能カードやGoogleフォームでの提出物に対する取り組みを評価する。 ○E：各種目における技能を評価する。 チームへの貢献度30%、受講態度30%、提出物10%、各種目における技能達成度30%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布する。
参考書	「YOGAポーズ解剖図鑑」成美堂出版 「深堀真由美のからだスッキリヨガプログラム」深堀真由美著 主婦の友社 「スタビライゼーション」小林敬和編著 ベースボールマガジン社
履修上の注意	①受講資格：健康診断（心電図も含む）において問題がないと認められた者。 ②体育館シューズ・ジャージ等、運動に適したものを各自で用意し、長爪やアクセサリ等は外すこと。 ③3週分のオンデマンド講座がある。指示通りに課題の提出を行うこと。
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、実習

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
澁木祥子			
ナンバリング：G14C21（1年生）	ナンバリング：G15C26（2年生）		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ■A：他者と協力して共に創り上げる力 □B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 □C：目標と計画を立てて課題を解決する力 □D：知識を活かして考える力 ■E：学んで理解する力
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 準備運動としてストレッチを実施する中で、心身をほぐす。リズムダンスの基礎的なステップを修得後、リズムに合わせて踊れるよう練習を実施する。 (授業目標) 習得した曲の中から自身の課題曲を決定し、グループでフォーメーションの創作を実施し、人前で発表できるようにする。 (学習成果) ◎A：自身の課題曲で、グループ創作を行い、チームをまとめる力を身につけることができる。 ○E：準備運動としてストレッチを行い、リズムダンスの基礎的なステップを修得することで個人の身体表現を磨き、リズムに乗って楽しく踊ることができる。
授業計画	1 ガイダンス（グループワーク：自己紹介）・ストレッチ、ウォームアップ【対面】 目的、授業における留意点、評価方法の説明、自己紹介 ストレッチ、基礎練習、リズムダンス(ウォームアップ) 2 ダンスを「みる」分析① 【オンデマンド】 ダンス作品をみる 1、振付、2、芸術面、3、構成面、4、制作面 5、出演ダンサーの身体と感情表現を分析する 3 リズムダンス①-1（実習：リズムダンス）【対面】 ストレッチ、基礎練習、リズムダンスを習得する(各種ステップ・フレーズ①) 4 リズムダンス①-2（実習：リズムダンス）【対面】 ストレッチ、基礎練習、リズムダンスを習得する(各種ステップ・フレーズ①仕上げ) 5 リズムダンス②-1（実習：リズムダンス）【対面】 ストレッチ、基礎練習、リズムダンス(各種ステップ・フレーズ②) 6 リズムダンス②-2（実習：リズムダンス）【対面】 ストレッチ、基礎練習、リズムダンス(各種ステップ・フレーズ②) 7 リズムダンス②-3（実習：リズムダンス）【対面】 ストレッチ、基礎練習、リズムダンス(各種ステップ・フレーズ②仕上げ) 8 リズムダンス③-1（実習：リズムダンス）【対面】 ストレッチ、基礎練習、リズムダンス(各種ステップ・フレーズ③) 9 リズムダンス③-2（実習：リズムダンス）【対面】 ストレッチ、基礎練習、リズムダンス(各種ステップ・フレーズ③) 10 リズムダンス③-3（実習：リズムダンス）・グループ創作①（グループワーク）【対面】 ストレッチ、基礎練習、リズムダンス(各種ステップ・フレーズ③仕上げ) グループ創作（構成作り）（ICT：iPad） 11 ダンスを「みる」分析② 【オンデマンド】 ダンス作品を分析する 1、振付、2、芸術面、3、構成面、4、制作面 5、出演ダンサーの身体と感情表現を分析する 12 グループ創作②（グループワーク）【対面】 ストレッチ、グループ創作(振り作り）（ICT：iPad） 13 グループ創作③（グループワーク）【対面】 ストレッチ、グループ創作（踊り込み）（ICT：iPad） 14 創作ダンス発表【対面】 グループ創作した作品発表(ICT：iPad) 15 創作ダンス鑑賞【オンデマンド】 グループ創作した作品を鑑賞する 自身のダンスパフォーマンスを振り返る
到達目標・基準 C評価になる基準	◎A：自身にあった課題曲を自分で選択し、創作活動に参加することができる。 ○E：軽いエクササイズやストレッチ、リズムダンスに苦手意識を持たずに楽しみ参加することができる。
事前・事後学習	事前学習：自分自身の身体の変化に気がつけるようにチェックを行う。（30分程度）

	事後学習：毎回導入として行うストレッチやマッサージの方法を覚え、日常生活でも実践していくようにする。（30分程度）
指導方法	戸板ホールで実習・Googleフォーム提出 ①準備運動としてストレッチを行い、その日の体調を確認する。 ②ウォームアップを音楽に合わせて行い、リズムに合わせて動くのしさを感じ、健康でしなやかな日常生活を送れるようにする。 ③リズムダンスを習得した後、グループ創作を行う。個人の身体表現を磨き、他者との身体コミュニケーションを行う意義について理解を深めさせる。 フィードバックの方法：iPadで動きや作品を撮影し、その動画を用いて改善していく。質問があった場合には、個別に対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎A：グループ活動時の貢献度と受講態度、またGoogleフォームなど提出物に対する取り組みを評価する。 ○E：個人技能を評価する。 グループへの貢献度30%、受講態度20%、提出物20%、個人技能達成度30%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布する。
参考書	「YOGAポーズ解剖図鑑」成美堂出版 「深堀真由美のからだスッキリヨガプログラム」深堀真由美著 主婦の友社 「プロフェッショナルピラーティス」アラン・ハードマン著 池田美紀訳 ガイアブックス 「ダンス解剖学」ジャッキー・グリーン・ハース著 武田淳也監訳 ベースボール・マガジン社
履修上の注意	①受講資格：健康診断(心電図も含む)において問題がないと認められた者。 ②体育館シューズ・ジャージ等、運動に適したものを各自で用意し、長爪やアクセサリ等は外すこと。 ③3週分のオンデマンド講座がある。指示通りに課題の提出を行うこと。
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク：実習、創作

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	総合：選択
担当教員			
澁木祥子			
ナンバリング：G14C22			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☒ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 準備運動としてストレッチを実施する中で、心身をほぐす。K-POPダンスの歴史の中で優れた評価を受けた作品を取り上げ、そこで踊られるダンスのテクニックや振付法を実際に掘り起しをし、踊ることにより実践的に学ぶ。 (授業目標) K-POPダンスの歴史の中で優れた評価を受けた作品を取り上げ、そこで踊られるダンスのテクニックや振付法を実際に掘り起しをし、踊ることにより実践的に学ぶことを目標とする。また文献や動画鑑賞によって作品や技術の研究、分析を行い、K-POPダンスに対する技術、振付、歴史的背景などについて総合的に理解を深めることを目標とする。 (学習成果) ◎A：選択した曲の中からグループ創作を実施し、チームをまとめる力を身につけることができる。 ◎E：K-POPダンスに対する技術、振付、歴史的背景などについて総合的に理解を深め、K-POPの基礎的なステップを修得することで個人の身体表現を磨き、リズムに乗って楽しく踊ることができる。
----------------------------------	--

授業計画	1 ガイダンス（グループワーク：自己紹介）【対面】 目的、授業における留意点、評価方法の説明、自己紹介 2 ストレッチ、ウォームアップ・K-POPダンス①-1（実習：リズムダンス）【対面】 ストレッチ、基礎練習、K-POPダンスを習得する（ウォームアップ） 3 K-POPダンス①-2（実習：リズムダンス）【対面】 ストレッチ、基礎練習、K-POPダンスを習得する（各種ステップ） 4 K-POPダンス①-3（実習：リズムダンス）【対面】 ストレッチ、基礎練習、K-POPダンスを習得する（各種ステップ・仕上げ） 5 K-POPダンス②-1 振り起し分析【オンデマンド】 過去の優れたK-POPダンス作品の中から選択し、K-POPダンス作品の映像を鑑賞する。作品のコンセプト、動きの特徴などを観察し、分析する。 6 K-POPダンス②-2 振り起し分析【オンデマンド】 選択したK-POPダンス作品の振りや、構成を身体的に表現できるようにする。グループごとにフレーズを分担し、作品の振り起しと分析を行う。オリジナル作品に近い形で再現できるようにする。 7 K-POPダンス②-3 振り起し分析【対面】 選択したK-POPダンス作品の振りや、構成を身体的に表現できるようにする。グループごとに、さらに作品分析の精度を高め、選択した作品を再現できるようにする。 8 K-POPダンス③-1（実習：リズムダンス）【対面】 ストレッチ、基礎練習、K-POPダンスを習得する（各種ステップ） 9 K-POPダンス③-2（実習：リズムダンス）【対面】 ストレッチ、基礎練習、K-POPダンスを習得する（各種ステップ・仕上げ） 10 K-POPダンス②-4 実演発表【対面】 グループごとに選択した作品の口頭発表、実演発表を行い、各作品の特徴について、理解を深める。他グループの振り起しされたK-POPダンス作品を体験し、再現する。 11 K-POPダンス②-5 実演発表【対面】 グループごとに選択した作品の口頭発表、実演発表を行い、各作品の特徴について、理解を深める。他グループは、振り起しされたK-POPダンス作品を体験し、再現する。 12 グループ創作1（グループワーク）【対面】 ストレッチ、グループ創作（構成作り）（ICT：iPad） 13 グループ創作2（グループワーク）【対面】 ストレッチ、グループ創作（踊り込み）（ICT：iPad） 14 K-POPダンス 創作発表【対面】 グループ創作した作品発表（ICT：iPad） 15 K-POPダンス 作品鑑賞【オンデマンド】
------	--

	グループ創作した作品発表を鑑賞し、自身の実演発表を振り返る。
到達目標・基準 C評価になる基準	◎A：自身にあった課題曲を自分で選択し、創作活動に参加することができる。 ○E：軽いエクササイズやストレッチ、K-POPダンスに苦手意識を持たずに楽しみ参加することができる。
事前・事後学習	事前学習：自分自身の身体の変化に気がつけるようにチェックを行う。（30分程度） 事後学習：毎回導入として行うストレッチやマッサージの方法を覚え、日常生活でも実践していくようにする。（30分程度）
指導方法	戸板ホールで実習・Googleフォーム提出 ①準備運動としてストレッチを行い、その日の体調を確認する。 ②ウォームアップを音楽に合わせて行い、リズムに合わせて動くたのしさを修得し、健康でしなやかな日常生活を送れるようにする。 ③K-POPダンスを習得した後、グループ創作を行う。個人の身体表現を磨き、他者との身体コミュニケーションを行う意義について理解を深めさせる。 フィードバックの方法：iPadで動きや作品を撮影し、その動画を用いて改善していく。質問があった場合には、個別に対応する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎A：グループ活動時の貢献度と受講態度、またGoogleフォームなど提出物に対する取り組みを評価する。 ○E：個人技能を評価する。 グループへの貢献度30%、受講態度20%、提出物20%、個人技能達成度30%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布する。
参考書	「YOGAポーズ解剖図鑑」成美堂出版 「深堀真由美のからだスッキリヨガプログラム」深堀真由美著 主婦の友社 「K-POP現代史 ——韓国大衆音楽の誕生からB T Sまで」山本浄邦著 筑摩書房 「K-POPはなぜ世界を熱くするのか」田中絵里菜著 朝日出版社
履修上の注意	①受講資格：健康診断(心電図も含む) において問題がないと認められた者。 ②体育館シューズ・ジャージ等、運動に適したものを各自で用意し、長爪やアクセサリ等は外すこと。 ③3週分のオンデマンド講座がある。指示通りに課題の提出を行うこと。
アクティブ・ラー ニング、PBL	グループワーク：実習、創作

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
澁木祥子			
ナンバリング：G14C23（1年生）	ナンバリング：G15C27（2年生）		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☒ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） 準備運動としてストレッチを実施する中で、心身をほぐす。様々なスポーツ種目の基礎技術を修得し、ゲームを実施する。ダンスにおいては、基礎的なステップを修得し、リズムに合わせて踊れるよう練習を実施する。 実施期間：5日間（土曜日） 実習場所：八王子キャンパス （授業目標） ゲームやダンスを通して、自身にあった生涯スポーツやダンスを発見し、楽しみながら健康・体力の維持・増進を図ることを目標とする。 （学習成果） ☐ B：習得した基礎技術を使用して、ゲームやダンスができる。 ☒ E：自身にあった運動を見つけ、参加することができる。
----------------------------------	---

授業計画	1 体づくり運動（実習：体ほぐし・ストレッチ）【対面】 体ほぐし、ストレッチ、ドッジビー 2 ニュースポーツ①基礎（実習：グランドゴルフ）【対面】 グランドゴルフ（基礎練習） 3 ニュースポーツ①応用（実習：グランドゴルフ）【対面】 グランドゴルフ（ゲーム） 4 体づくり運動（実習：エクササイズ・エアロビクスダンス）【対面】 ストレッチ、エクササイズ、エアロビクスダンス 5 ニュースポーツ②基礎（実習：インディアカ）【対面】 シッティングバレーボール、インディアカ（基礎練習） 6 ニュースポーツ②応用（実習：インディアカ）【対面】 インディアカ（ゲーム） 7 体づくり運動（実習：体ほぐし・エアロビクスダンス）【対面】 体ほぐし、ストレッチ、エアロビクスダンス 8 ダンス（実習：リズムダンス）【対面】 ダンス（ステップ練習、フレーズ練習） 9 球技①基礎・応用（実習：ポートボール）【対面】 ポートボール（基礎練習、ゲーム） 10 体づくり運動（実習：体ほぐし・ストレッチ）【対面】 体ほぐし、ストレッチ、ドッジビー 11 ラケット種目①基礎（実習：卓球）【対面】 卓球（基礎練習） 12 ラケット種目①応用（実習：卓球）【対面】 卓球（ゲーム） 13 体づくり運動（実習：ストレッチ・エクササイズ）【対面】 ストレッチ、エクササイズ 14 ニュースポーツ基礎③（実習：モルック・キンボール）【対面】 モルック（基礎練習・ゲーム） 15 ニュースポーツ③応用（実習：キンボール）【対面】 キンボール（基礎練習・ゲーム）
------	--

到達目標・基準 C評価になる基準	☐ B：各種スポーツ、ダンスの基礎技術を修得できる。 ☒ E：健康・体力の維持・増進を図る姿勢を身に付けることができる。
事前・事後学習	事前学習：今後の自身の生活に活かせるように「生涯スポーツ」について調べておく。（30分程度） 事後学習：授業内で実施したスポーツ種目と、自身の日常生活との関わり方について考える。（30分程度）
指導方法	①準備運動として、ストレッチやエクササイズ（エアロビクスダンス）を行い、その日の体調を確認する。

	②各々のスポーツ種目やダンスの基礎技術を練習し、修得する。 ③ゲームのルールを説明した後、ゲームを行う。ダンスの場合は、リズムに合わせて踊れるよう練習する。 ④生涯にわたって楽しく続けられるスポーツ技術、運動能力を身に付けるにはどのような工夫が必要か考えさせ、それらをゲーム（ダンス）のルールに適用させて、ゲーム（ダンス）を行う。 フィードバックの方法：実技や技能カード等を総合的に評価し、授業時に返却する。質問があった場合には、個別に対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	○B：各種目における技能を評価する。 ◎E：積極的にスポーツ・ダンスを実施しているか、チームにおける貢献度と受講態度、また技能カード等の提出物に対する取り組みを評価する。 チームへの貢献度30%、受講態度30%、提出物10%、各種目における技能達成度30%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布する。
参考書	特になし
履修上の注意	①受講資格：健康診断（心電図も含む）において問題がないと認められた者。 ②受講時の注意事項：運動靴・ジャージ等、運動に適したものを各自で用意し、長爪やアクセサリ等にははさずこと。 ③事前オリエンテーション：事前に指定されたオリエンテーションに必ず参加すること。 ④実習期間：5日間（土曜日隔週）※実習期間は、5日間となるため、1日に3回分の授業を実施する。 ⑤実習場所：八王子キャンパスで実施する。 ⑥履修人数によって、実施できるスポーツが異なるため、授業内容が変更になる場合がある。その際は再度説明を行う。
アクティブ・ラーニング、PBL	実習

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：選択
担当教員			
中村公子（契約講師：ELEC）、玉川明日美			
ナンバリング：G15C24			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☒ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） 読む・書く・聞く・話すの4技能をバランスよく身につけられるよう、Listening/Speakingをネイティブ講師から、Reading/Writingを日本人講師から学ぶ。RWでは、英文を正確に読み取るためのリーディングスキルと、自らの考えを伝えるためのライティング技法を学ぶ。LSでは、ビジネスシーンでのコミュニケーションが円滑に運ぶための表現やフレーズをロールプレイなどさまざまなアクティビティを通して身につける。双方の内容を通して、英語圏におけるものの考え方や文化的背景を知る。 （授業目標） 多角的なアプローチにより、バランスの取れた4技能のスキルアップを図るとともに、グローバルな視点を身につける。 （学習成果） ◎B： (RW) 扱った内容に関連する事柄を調べ、自らのことばでレポートにまとめたり発表に繋げることができる。 (LS) Communicate in a variety of everyday situations and discuss a range of topics. (日常のさまざまな場面における幅広いトピックに英語で応対できる力を身につける) ○E： (RW) 英語特有の発想や表現パターンを理解し応用できる。文化の違いについての造詣を深めることができる。 (LS) Understand and use vocabulary related to their specialized area of study (Fashion and Design), and compose well-organized and logical presentations using the vocabulary and presentation techniques covered in class. (専攻の学修内容（服飾）に関連した語彙を理解し、使えることを目指す。既習の語句やプレゼンテーション・スキルを応用して、わかりやすいプレゼンテーションを組み立てて発表する力を身につける)
----------------------------------	--

授業計画	1 RW RW: Course Orientation 【対面】 授業全体およびReading and Writing (RW) 部分についてのガイダンスを行う。 1 LS LS: Course introduction and orientation, Classroom language 【対面】 Listening and Speaking (LS) 部分の学修についてのガイダンスを行う。All Englishの授業に参加する際に使える語句やフレーズを学ぶ。 2 RW RW: Unit 1 Why Do We Wear Clothes? 【対面】 Clothes for important daysを読んで、文化による衣装の違いを知る。 2 LS LS: Project (PBL) Lesson 1&2: Brainstorming and Signposting Language 【対面】 Project Introduction グループで、リサーチ・トピックとターゲットとなるファッション・スタイルを決める。適切なStyle Modification (スタイルの現代化) とは何かを考え、まとめる。わかりやすいプレゼンに活用できる語句 (signposting language) を学ぶ。 3 RW RW: Unit 1 Why Do We Wear Clothes? 【対面】 Clothes for every dayを読んで、過去と現代の服の違いを知る。 3 LS LS: ESP Lesson 1: Product Promotion and Marketing 【対面】 アパレル商品の説明、プロモーション、マーケティングに使われる基本語彙を学ぶ。 4 RW RW: Unit 1 Why Do We Wear Clothes? 【対面】 Looking goodを読んで、文化や時代によって変化する流行の考え方を学ぶ。Unit 1 まとめテスト 4 LS LS: ESP Lesson 2: Fashion Displays 【対面】 店舗のディスプレイを説明するための語彙を学び、練習する。 5 RW RW: Unit 2 The History of Clothes 【対面】 Making fabricsを読んで、繊維や生地の種類と歴史を知る。 5 LS LS: ESP Lesson 3, 4: Garments and Colors. Quiz 1 on ESP 1, 2 (with listening questions) 【対面】 服の色、スタイル、付属の装飾品、作り方に関する語彙を学ぶ。小テスト① (ESP 1, 2に関する語彙。リスニング問題を含む) 6 RW RW: Unit 2 & 5 Fabrics 【オンデマンド】 Unit 2で扱った繊維に関するtopic (Unit 5) の解説スライドを視聴し、発表 (第8回) と提出をもって出席とみなす。
------	---

	6 LS	LS: ESP Lesson 4: Garment Creation 【対面】 アパレル商品を説明する時にどう応用できるか練習する。
	7 RW	RW: Unit 2 & 5 The History of Clothes 【対面】 Making fabricsを読み、糸や縫製技術の変遷を知る。
	7 LS	LS: PBL Lesson 3: Using visual aids. Quiz 2 on ESP 3, 4 (with listening questions) 【対面】 プレゼンテーション発表スキル（視覚資料の作り方）を学修し、スクリプト等、自分のプレゼンテーションを作る。小テスト②（ESP 3, 4に関する語彙。リスニング問題を含む）
	8 RW	RW: Unit 2 & 5 Fabrics グループ内発表 【対面】 オンデマンド課題（繊維について）の発表を対面でグループごとに実施する。
	8 LS	LS: PBL Lesson 4: Body language and Gestures 【対面】 プレゼンテーション発表スキル（適切なジェスチャーの使い方）を学修し、スクリプト等、自分のプレゼンテーションを作る。
	9 RW	RW: Unit 2 The History of Clothes 【対面】 Modern Clothesを読んで、服作りの技術の進歩と現代の衣服の特徴を知る。Unit 2 まとめテスト
	9 LS	LS: ESP Lesson 5, 6: Fabric Types, Fabric Patterns 【オンデマンド】 生地の種類や代表的な模様を説明する語彙を学び、それらが使われた服や装飾品を説明する練習をする。プリント課題に取り組み、確認クイズに回答することで出席とみなす。
	10 RW	RW: Unit 3 The Language of Clothes 【オンデマンド】 Traditional costumeについての解説スライドを視聴し、課題の提出をもって出席とみなす。
	10 LS	LS: ESP Lesson 5, 6: Fabric Types, Fabric Patterns 【オンデマンド】 生地の種類や代表的な模様を説明する語彙を学び、それらが使われた服や装飾品を説明する練習をする。プリプリント課題に取り組み、確認クイズに回答することで出席とみなす。
	11 RW	RW: Unit 6 The Clothing Industry 【対面】 Designers, Buyers, Sales Clerkを読み、それぞれの役割を知る。
	11 LS	LS: PBL Lesson 5: Presentation Final Practice①. Quiz 3 on ESP 5, 6 (with listening questions) 【対面】 スクリプトを使わないプレゼンテーションの発表練習をする。小テスト③（ESP5, 6に関する語彙、リスニング問題含む）
	12 RW	RW: Unit 6 The Clothing Industry 【対面】 ファッション業界における問題点を探る。
	12 LS	LS: PBL Lesson 6: Presentation Final Practice② 【対面】 プレゼンテーションの内容、発表方法、視覚資料、ジェスチャーについて、フィードバックを受け、修正する。
	13 RW	RW: Unit 6 The Clothing Industry 【対面】 The supply chainを読み、衣料品の流通について知る。Unit 6 まとめテスト
	13 LS	LS: PBL Lesson 7: Final Presentations① 【対面】 最終プレゼンテーションの発表を行い、フィードバックを受ける。
	14 RW	RW: Clothesに関する課題&解説 【オンデマンド】 学期末課題についてのスライドを視聴しレポートを作成する。その提出をもって出席とみなす。
	14 LS	LS: PBL Lesson 8: Final Presentations② 【対面】 最終プレゼンテーションの発表を行い、フィードバックを受ける。前期の学修の自己振り返りを行う。
	15 RW	RW: Unit 8 Crazy Clothes 【対面】 Fashion Showを読んで、デザイナーの意図を知る。
	15 LS	LS: PBL Extension Lesson: Investment Rationale Video 【オンデマンド】 第13回および14回の授業で見たプレゼンテーションの内、自分の考える最も優れたプランを選び、その概要と選択理由を説明する。説明する様子をビデオ撮影し、その映像の提出をもって出席とみなす。
到達目標・基準 C評価になる基準	◎B : (RW) テキストを正しく理解し、さらに内容を深堀りして自らの学びに繋げることができる。 (LS) Use a variety of grammar structures in spoken English. ○E : (RW) スキミングやスキヤニングなどのリーディング技法を用いて、英文の主旨を正確に掴むことができる。 (LS) Understand and use vocabulary related to their particular area of study.	
事前・事後学習	事前学習 (RW) 前週の既習内容についての振り返りを行う。発表やレポートの準備を進める。(約30分) (LS) Both homework and preview work are compulsory. Toward the end of the semester, students are expected to continue working on their presentations out of class. They will be expected to prepare for their presentations (e.g. writing and editing their scripts, practice presenting without their scripts etc.). (約30分) (事前・事後両方の学修が必須。プレゼンテーションに必要なすべての項目の準備を進めて学期末の発表に備える。) 事後学習 (RW) 授業時に課されたワークや課題に取り組み、知識の定着を図る。(約30分) (LS) Homework will be a review of the target language studied in class. Students are encouraged to maintain vocabulary notebooks to aid language retention and serve as review resources. (約30分) (既習語彙の復習を行う。) 	
指導方法	RWとLSを毎時間45分交代で実施する	

	(RW) リーディングスキル（主旨の把握、文章構成の理解など）の育成を目標に、各種ワークやアクティビティ・関連動画などを取り入れ楽しみながら英文を読むことができるよう指導する。また、毎時の課題としてリサーチまたは英作文を課し、英語での表現力を養う。 フィードバックの方法：各ユニットごとに課題の提出を義務付け、まとめテストを実施する。授業内で解説または添削のうえ返却する。 (LS) The course consists of an introduction class, six project lessons, six ESP lessons, and two assessed presentation and feedback lessons. Students will learn new vocabulary related to their major and then expected to apply the acquired knowledge in their presentation (project). Vocabulary and listening quizzes will be administered to assess language retention and encourage language review. (一般英会話・学科の学びに繋がる専門英語・プレゼンテーションで授業を構成する。適宜単語テストおよびリスニングテストを行う。)
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎B：レポート課題や発表等で評価する。 ○E：小テストや課題の達成度で評価する。 * (LS) Speaking ability is measured through the presentations, and their listening ability is assessed via an in-class listening test in week 5, 7 and 11. (スピーキング力はプレゼンテーションの発表から、リスニング力は第5週、第7週、第9週に授業内でテストを行い、評価する) (RW) 各ユニットまとめテスト 30% 提出物・貢献度 30% オンデマンド課題・期末レポート 40% (LS) Presentation Performance (プレゼンテーション発表) 40% Listening Test (リスニングテスト) 25% Vocabulary Quizzes (単語テスト) 15% Classroom Performance and Participation (授業態度と貢献度) 20% *最終的な評価は、RW/LSそれぞれの評価を合わせて100%としたものから算出する。
テキスト	(RW) Clothes Then and Now, Richard Northcott (2018), Oxford University Press (LS) なし。適宜プリント等を配布する。
参考書	授業の際に指示する
履修上の注意	グローバル化の進む社会での基礎を作る授業です。積極的に取り組み英語での発信力を高めましょう。小テストはPCまたはスマートフォンで行うため、毎回必ず持参すること。
アクティブ・ラーニング、PBL	プレゼンテーション ディスカッション グループワーク アクティブ・ラーニング PBL

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：選択
担当教員			
中村公子、石田毅、Todd William			
ナンバリング：G15C25			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☒ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） 読む・書く・聞く・話すの4技能をバランスよく身につけられるよう、Listening/Speakingをネイティブ講師から、Reading/Writingを日本人講師から学ぶ。LSでは、ビジネスシーンでのコミュニケーションが円滑に運ぶための表現やフレーズをロールプレイなどさまざまなアクティビティを通して身につける。RWでは、英文を正確に読み取るためのリーディングスキルと、自らの考えを伝えるためのライティング技法を学ぶ。双方の内容すべてを通して、英語圏におけるものの考え方や文化的背景を知る。 （授業目標） 多角的なアプローチにより、バランスの取れた4技能のスキルアップを図る。グローバルな視点を身につける。 （学習成果） ◎B： (RW) 学ぶの内容を更に掘り下げ、自分なりの意見にまとめて発信することができる。 (LS) Communicate in a variety of everyday situations and discuss a range of topics. (日常のさまざまな場面における幅広いトピックに英語で応対できる力を身につける) ○E： (RW) さまざまな国の観点から書かれた文章を読み、英語特有の発想や表現パターンを身につける。 (LS) Understand and effectively use vocabulary related to their specialized field of study, while composing well-organized presentations and delivering them with confidence. (専攻の学修内容に関連した語彙を理解し、使えることを目指す。既習の語句やスキルを応用して、プレゼンテーションを作成・発表する力を身につける)
----------------------------------	---

授業計画	1, 2 RW(Reading & Writing) : Course Orientation, Unit 1 Food for life 【対面】 Course orientation Unit 1 Five Major Nutrients 1, 2 LS(Listening & Speaking) : General English & ESP 【対面】 Course introduction and orientation / Ice-breaker activities General English: Discuss Personal Skills and Abilities ESP: Food; Food Groups 3, 4 RW : Unit 1 Food for life / Digestion 【対面】 Nutrients, Organs 3, 4 LS : General English & ESP 【対面】 General English: Introducing and Asking about Family Members ESP: Food Preparation 5, 6 RW : Digestion 【対面】 Digestive system and diseases 5, 6 LS : General English & ESP 【対面】 General English: Describing personalities ESP: Weights and Measures 7, 8 RW : Unit 3 Food origins 【対面】 Origins of chocolate and potato chips 7, 8 LS : General English & ESP 【対面】 General English: Describing appearance ESP: Essential Macronutrients and their Sources 9, 10 RW : Unit 4 Typical Dishes 【対面】 Traditional food around the world 9, 10 LS : General English & ESP 【対面】 General English: Talking about the Past ESP: Essential Micronutrients and their Sources 11, 12 RW : Unit 4-7 & Group Presentation 【オンデマンド】 Research and presentation about typical food in the world 11, 12 LS : General English & ESP 【対面】
------	---

	Role-Play Preparation ESP: Food Labels 13, 14 RW: Unit 8 Giving thanks 【対面】 Harvest Festivals 13, 14 LS: Role-Play Preparation & ESP 【オンデマンド】 Role-Play Presentations 15 Course Wrap-up 【オンデマンド】 既習事項の振り返りを行い、知識の定着を図る。
到達目標・基準 C評価になる基準	◎B: (RW) 学科の学びに沿った英文に触れ、モチベーションをもって最後まで読み進めることができる。 (LS) Use a variety of grammar structures in spoken English (適切な文法を用いた会話ができる) ○E: (RW) スキミングやスキニング等のリーディング技法を用いて英文の主旨を正確に掴むことができる。 (LS) Understand and use vocabulary related to their particular area of study (学科の学びに関連した語彙を理解して使用することができる)
事前・事後学習	事前学習 (RW) 小テストに備え前週の既習事項に関する振り返りを行う。発表等の準備を進める。(約30分) (LS) Both homework and preview work are compulsory. Towards the end of the semester, students are expected to continue work on their presentations out of class. They will be expected to prepare for their presentations (e.g. writing and editing their scripts, practice performing their scripts etc.). (約30分) (事前・事後両方の学習が必須。プレゼンテーションに必要な項目すべての準備を進め、学期末の発表に備える) 事後学習 (RW) 授業時に課されたワークや課題に取り組む。(約30分) (LS) Homework will be a review of target language studied in class. (約30分) (語彙の復習を行う)
指導方法	RWとLSを1週交代に行う。 (RW) リーディングスキル(主旨の把握、文章構成の理解など)の育成を目標に、各種ワークやアクティビティ・関連動画などを取り入れ楽しみながら英文を読むことができるよう指導する。また、毎時の課題としてリサーチまたは英作文を課し、英語での表現力を養う。 フィードバックの方法: 課題及び小テストの実施と、授業内での解説とコメントまたは添削物の返却 (LS) The course consists of an introduction class, six ESP lessons, three role-play presentation classes, and five general English lessons. The semester begins with a focus on general English skills, and ends with role-play presentations. The rest of the course alternates between general English and ESP material appropriate to the students' major. Vocabulary quizzes will be administered to assess language retention and encourage language review. (一般英会話・学科の学びに繋がる専門英語・ロールプレイプレゼンテーションで授業を構成する。適宜単語テストを行う。それぞれの課題に対し適宜フィードバックを行う。)
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	(RW) ◎B: 課題の達成度や発表内容で評価する。 ○E: テストや提出物で評価する。 小テスト 10% 課題・提出物・貢献度 40% 確認テスト 50% (LS) ◎B・E: Speaking ability is measured through role-play presentations, and their listening ability is assessed via a listening test in week sixteen (outside of the fifteen-week semester). (スピーキング力はロールプレイの発表から、リスニング力は確認テストから評価する) Role-Play Presentation (ロールプレイ発表) 35% Listening Test (リスニングテスト) 25% Vocabulary Quizzes (単語テスト) 20% Participation (貢献度) 20% *最終的な評価は、RW/LSそれぞれの評価を合わせて100%としたものから算出する。
テキスト	(RW) Food Around the World, Robert Quinn(2010), Oxford University Press (LS) なし。適宜プリント等を配布する。
参考書	授業の際に指示する
履修上の注意	グローバル化の進む社会での基礎を作る授業です。積極的に取り組み英語での発信力を高めましょう。 小テストはPCまたはスマートフォンで行うため、毎回必ず持参すること。
アクティブ・ラーニング、PBL	ディスカッション グループワーク ロールプレイプレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
中村公子			
ナンバリング：G15C26（1年生）	ナンバリング：G16C30（2年生）		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力		
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 英語4技能（読む・書く・聞く・話す）のすべての基本となる文法を基礎から学びなおし、相手に正しく伝えられる英文を表現できるよう、理解と演習を繰り返す。また、TOEICや英検等で問われる知識から学習をすすめ、得点アップにつなげる。 (授業目標) 自らの将来とそれに必要な英語力を知り、目標設定をする。その達成向け実現可能な計画を立てて実行する。 (授業成果) ◎C：自らの目標とした英語力獲得に向けて計画的に学習を進め、目標に近づくことができる。 ○D：言葉の規則を理解し、適切に使用しながら、自らの意見を正確に伝えられることができる。		
授業計画	1	形容詞と副詞【対面】 形容詞と副詞の区別	
	2	形容詞と副詞【対面】 品詞による形の違いと語順(1)	
	3	形容詞と副詞【オンデマンド】 品詞による形の違いと語順(2)	
	4	分詞【対面】 現在分詞と過去分詞	
	5	語彙【オンデマンド】 現在分詞と過去分詞語彙問題の見極め	
	6	文型【対面】 5文型と品詞	
	7	文型【対面】 第5文型、知覚動詞、使役動詞	
	8	動詞の形【対面】 態、不定詞、動名詞など(1)	
	9	動詞の形【対面】 態、不定詞、動名詞など(2)	
	10	動詞の形【対面】 態、不定詞、動名詞など(3)	
	11	名詞・代名詞【対面】 可算名詞・不可算名詞、単数・複数 再帰代名詞・不定代名詞(1)	
	12	名詞・代名詞【対面】 再帰代名詞・不定代名詞(2)	
	13	接続詞【オンデマンド】 さまざまな接続詞と意味	
	14	接続詞と前置詞【対面】 接続詞と前置詞の見分け、使い分け	
	15	接続詞と時制【対面】 注意すべき接続詞と時制の関係	
到達目標・基準 C評価になる基準	◎C：検定等のスコア達成目標を決め、達成に向け計画的かつ地道に努力できる。 ○D：英語の基本となる文の構造を理解し、正しい語句の使い分けができる。		
事前・事後学習	事前学習 あらかじめテキストの解説ページを読み、基礎知識を入れたうえで授業に臨むよう準備する。小テストに備え前週の既習内容についての振り返りを行う。(約40分)		

	事後学習 授業時に課されたワークや課題に取り組み、内容の定着を図る。(約50分)
指導方法	解説は最低限にとどめ、演習を重視する。授業だけにとどまらず、課題としても問題演習を課す。より多くの問題を解くことで知識の定着を図る。 フィードバックの方法：課題及び小テストの実施と、授業内での解説、コメントまたは添削物の返却。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎C：小テストや課題の達成度、発表等で評価する。 ○D：ワークや課題の成果で評価する。 小テスト 10% 課題・提出物・貢献度 40% 確認テスト 50%
テキスト	マーフィーのケンブリッジ英文法 中級編 第4版(2017) Raymond Murphy著 Cambridge University Press
参考書	適宜授業の際に指示する
履修上の注意	全ての英語の基礎を作る授業です。積極的に取り組み英語での発信力を高めましょう。 毎回辞書を用意すること。 小テストはPCまたはスマートフォンで行うため、シラバスに記載のある回には必ず持参すること。
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク PBL

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
Ivan Botev、高橋大樹			
ナンバリング：G15C27 (1年生)	ナンバリング：G16C31 (2年生)		授業方法：対面 (み)
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 本授業では、ホテルや観光地での外国人観光客とのコミュニケーションに必要な英語を学びます。チェックインからチェックアウトまでの接客対応に加え、道案内やおすすめの観光スポット・お土産の紹介、トラブル対応など、実際の業務に役立つ表現を習得します。また、会話表現や文法だけでなく、日本文化を説明するための語彙やフレーズも学び、ロールプレイを通じて実践的に練習します。 (授業目標) 本授業では、宿泊施設や観光業で求められる英語力の向上を目指します。具体的には、外国人ゲストのチェックイン対応からチェックアウト時の見送りまで、幅広い場面で使われる英語表現を学び、スムーズな接客ができるようになることを目標とします。 (学習成果) ◎E：外国人観光客とコミュニケーションを取り、もてなすことができる。 ◎E：外国人観光客の要望を正しく理解し、アクティビティの提案や的確な補助ができる。 ○D：基本的な日常英会話表現を理解し、使用できる。 ○D：日本の文化やエチケット、習慣を正しく理解し、英語で説明できる。
----------------------------------	--

授業計画	1 Orientation and Introduction Orientation to course and students' self-introductions 2 Welcoming guests. Welcoming a guest with no reservation. Checking in guests I Finding out what guests need I Giving guests information Checking in guests I Handling a difficult situation I Saying No politely 3 'Difficult' guests. Looking after guests (1). Explaining things I Finding solutions to problems I Making suggestions Offering to help I Giving simple directions I Explaining things 4 Looking after guests (2). Reservation inquiries. Organizing transport I Giving information to guests I Agreeing to do something Handling reservation inquiries I Taking reservations I Taking credit card details 5 Reservation changes. Phone calls to reception. Changing reservations I Cancelling reservations I Confirming cancellations Transferring calls within the hotel I Dealing with guests' problems 6 Communication problems. Guest problems. Dealing with a bad phone line I Confirming details I Making information clear Handling guest complaints I Solving problems I Moving guests to a new room 7 At breakfast. At the bar Saying where things are I Offering food and drink I Taking breakfast orders Taking orders at the bar I Recommending something I Taking payment 8 Complaints from guests at the bar. In the restaurant (1). Dealing with complaints I Apologizing for mistakes I Explaining the bill Welcoming diners I Giving out menus I Taking drinks orders 9 In the restaurant (2). In the restaurant (3) Taking food orders I Explaining dishes I Choosing drinks Asking about dessert and coffee I Bringing the bill I Handling payment 10 Housekeeping. Housekeeping problems Briefing new staff I Explaining hotel rules I Answering questions Dealing with requests I Solving problems I Agreeing to come back later 11 Room service. Guest services. Taking room service orders I Agreeing delivery times I Delivering room service Ordering things for guests I Making appointments I Checking information 12 In the business centre. Recommendations for places to eat. Explaining available services I Providing equipment I Providing information Making restaurant recommendations I Comparing things 13 On-Demand Assignment 1: Hotel Check-In Simulation
------	---

	(Instructions will be given on Google Classroom) 14 On-Demand Assignment 2: Solving a Guest's Problem (Instructions will be given on Google Classroom) 15 On-Demand Assignment 3: Local Recommendations Guide (Instructions will be given on Google Classroom)
到達目標・基準 C評価になる基準	◎E：外国人観光客と基本的なコミュニケーションを取り、もてなすことができる。 ◎E：外国人観光客の要望を理解し、適切な補助ができる。 ○D：基本的な日常英会話表現を理解し、使用できる。 ○D：日本の文化やエチケット、習慣を理解し、英語で説明できる。
事前・事後学習	(事前学習) 次課の教材を読みわからない語彙の意味を調べる (15分)、ロールプレイの準備 (15分) Read the materials for the next lesson and look up any unknown words (15 minutes). Prepare for the assessed roleplays. (15 minutes) (事後学習) 授業内で扱った重要語句や文法事項の復習 (30分) Review target language studied in class. (30 minutes)
指導方法	This course teaches essential English for hotel interactions, from check-in to check-out, including face-to-face conversations, phone calls, and emails. Each unit starts with a model dialogue, followed by practice activities to reinforce key expressions. [Role-plays] Students will be assessed on a role-play based on class topics, evaluating both their script and performance. [Feedback] Verbal and written feedback will be provided after the role-play. この科目では、ホテル業務に必要な英語を学びます。チェックインからチェックアウトまでの会話、電話対応、メールのやり取りを練習します。各ユニットはモデル会話から始まり、演習を通じて表現を定着させます。 [ロールプレイ] 授業内容をもとにロールプレイを行い、原稿と実演の両方を評価します。 [フィードバック] ロールプレイ後、口頭および書面でフィードバックを行います。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎E：ロールプレイの発表および原稿で評価する。 ○D：テストで評価する。 Participation 20% Speaking Test 40% Writing Test 40%
テキスト	Hotel and Hospitality English (Collins English for Work). Mike Seymour. Collins, 2012. 978-0007431984
参考書	授業の際に指示する
履修上の注意	グローバル化の進む社会での基礎を作る授業です。積極的に取り組み英語での発信力を高めましょう。毎回辞書を用意すること。
アクティブ・ラー ニング、PBL	Pair work, Group work, Role play, others.

講義科目名称： フランス語 1

授業コード： 4361

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
中村公子（契約講師：東祥子）			
ナンバリング：G15C28（1年生）	ナンバリング：G16C32（2年生）	実務家教員による授業	授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☒ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） 基礎フランス語を学ぶ。語学と同時に文化・国民性にも触れて、フランス語は勉強ではなく文化の一部であり、生きている・使うものという事を念頭において楽しく学ぶ。常に＜参加型＞の授業で、講義ではなく、[話そう、聞き取ろう、答えよう]という形式で、簡単な会話の授業を行う。教室に入ったら、フランスの世界！を実感。旅行、日本における国際機関、ホテル業、観光業、飲食業（調理場）で実際役立つやり取りが出来るようなロールプレイを繰り返し理解する。 （授業目標） 一年間で基礎フランス語をマスターし、話す・聞く・読むと言った3技能をしっかりと学習・理解して「参加しよう、話そう、コミュニケーションをとろう！」が指導目標。 （学習成果） ○B：積極的に自分から話すことができる、聞き取ることができる。 ◎E：社会で使えるよう、自分の進路・興味に合うシチュエーションを選び理解を深め、実践に繋げることができる。
----------------------------------	--

授業計画	1 Lecon 1 オリエンテーション（対面） 授業の概要 フランスってどんな国？ 挨拶 1 2 Lecon 2 アルファベ （対面） アルファベット、読み方のルール 発音の仕方 挨拶 2 3 Lecon 3 敬称・自己紹介 （対面） 自己紹介「私は～です」 自分の名前をアルファベットで一文字ずつフランス語で言う 数字(1～10) 4 Lecon 4 表現 （対面） 色々な表現 「ありがとう」 「どういたしまして」 「どうぞ」 「お願いいたします」等 数字(11～20) 5 Lecon 5 冠詞・名詞 （対面） 女性名詞、男性名詞、リエゾンの仕組み 曜日 6 Lecon 6 主語人称代名詞と動詞 （対面） 動詞の活用 文章を作る je/tu/il/elle/nous/vous/ils/elles 7 Lecon 7 オンデマンド授業 復習回 動画配信+Classroomで質疑応答 Lecon 1～6の復習 8 Lecon 8 動詞 etre / avoir （対面） 不規則動詞の活用 etre 自己紹介（国籍・職業） avoirの様々な表現 場所を表す前置詞 9 Lecon 9 部分冠詞 du / de la / des / de l' （対面） 表現「～がある」 語彙 10 Lecon 10 オンデマンド授業 復習回 動画配信+Classroomで質疑応答 Lecon 8～9の復習
------	---

	11 Lecon 11 er 動詞 (対面) 動詞：好む・住む・食べる・働く・買う・勉強する・探す・歩く 12 Lecon 12 疑問文・否定文 (対面) 「～ですか？」疑問文 「～ではありません」否定文 13 Lecon 13 形容詞の性と数 命令文 (対面) 男性形、女性形、複数形の作り方 「～しなさい」命令文 14 Lecon 14 オンデマンド授業 復習回 動画配信+Classroomで質疑応答 総復習 15 Lecon 15 期末口頭試験 (対面)
到達目標・基準 C評価になる基準	○B：積極性を持って取り組むことができる。 ◎E：学習内容を理解し、演習することができる。
事前・事後学習	毎日学習：前回学んだ講義内容を参考に、発音を意識してテキストを音読し、文章を覚える。(毎日15分程度) 事後学習：今回学んだ文法を理解して練習問題を解く。(30分程度)
指導方法	教科書の内容に沿って、文法を分かり易く説明して理解させる。文字の読み方をしっかり確認しながらフランス語を声に出して発音させる。実際にロールプレイで全員が参加してコミュニケーションを取りながら会話の練習をする。目や頭ではなく、口と耳をフル回転して楽しくフランス語を身に付けていく。 フィードバックの方法：練習問題を皆で確認する。フランス語での質疑応答で理解度を確認する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○B：授業内質疑応答で評価する。 ◎E：口頭試験で評価する。 授業での課題30% 授業への貢献度30% 口頭試験40%
テキスト	Nouveau Ken et Julie 1 (駿河台出版社) 講師参考資料よりプリントの配布
参考書	講師参考資料 Bescherelle la conjugaison C'est la vie 早美出版社 Mon premier vol Tokyo-Paris 駿河台出版社 Une aventure 早美出版社 パターンで話せるフランス語 ナツメ社
履修上の注意	フランス語の授業を受けに来るのではなく、フランス語を話にくる事を意識しましょう。 また毎日の音読で、旅行先で、社会人になって仕事場で、街中で、習得したフランス語を活かせるように、自分なりの目標・目的を持って授業に臨みましょう。1回でも欠席するとそれをきっかけに分からなくなるので欠席は極力しないようにしましょう。また、オンデマンド授業は復習回の為、分からない時は何度も視聴して活用しましょう。 フランス語は日本において日常触れている身近な言葉です。 英語が外国語として主流の日本で、実はフランス語も毎日触れている言葉です。 多様性が求められ、様々な文化・文明への探求が益々求められる日本社会において、フランス語は教養語ではなく、日常語であり、よく耳にする、見る言葉です。意外にもフランス語は私達の日々の生活に溢れています。レストラン、ホテル、空港、ファッションアイコン、オリンピック・パラリンピックの公用語、多数のアフリカ諸国の公用語、国際機関においてもフランス語は必須です。この機会に1年間で社会で使える基礎フランス語を身に付ける。 また学年末には実用フランス語検定5級にもトライできる学力を身に付ける。
アクティブ・ラーニング、PBL	ロールプレイ、ペアワーク

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	総合：選択
担当教員			
中村公子（契約講師：東祥子）			
ナンバリング：G26C33	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐A：他者と協力して共に創り上げる力 ☒B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐D：知識を活かして考える力 ☒E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） 基礎フランス語を学ぶ。語学と同時に文化・国民性にも触れて、フランス語は勉強ではなく文化の一部であり、生きている・使うものという事を念頭において楽しく学ぶ。常に＜参加型＞の授業で、講義ではなく、[話そう、聞き取ろう、答えよう]という形式で、簡単な会話の授業を行う。教室に入ったら、フランスの世界！を実感。旅行、日本における国際機関、ホテル業、観光業、飲食業（調理場）で実際役立つやり取りが出来るようなロールプレイを繰り返し理解する。 （授業目標） 一年間で基礎フランス語をマスターし、話す・聞く・読むと言った3技能をしっかりと学習・理解して「参加しよう、話そう、コミュニケーションをとろう！」が指導目標。 （学習成果） ○B：フランス語を使ってコミュニケーションをする意欲を深める。 ◎E：挨拶、願望、意思を伝えるフランス語の基本表現を操作できる。
----------------------------------	---

授業計画	1 Lecon 1 色々な動詞（対面） 「動詞： 好む・住む・食べる・働く・買う・勉強する・探す・歩く 数字(20～30) 2 Lecon 2 不規則動詞・指示形容詞（対面） vouloir 「～したい」 pouvoir 「～できる」 prendre 「とる、食べる、乗る」 attendre 「待つ」 数字(30～40) 3 Lecon 3 不規則動詞・前置詞+冠詞の縮約（対面） aller 「～へ行く」 venir 「～から来る」 数字(40～50) 4 Lecon 4 オンデマンド授業 復習回 動画配信+Classroomで質疑応答 Lecon 1～3の復習 5 Lecon 5 疑問副詞 近い未来形・近い過去形・疑問代名詞（対面） 疑問文「いつ」「どこで」「どのように」「いくら」「なぜ」？「誰が」？ aller+動詞の原形 venir de+動詞の原形 数字(50～60) 6 Lecon 6 不規則動詞・時を表す前置詞（句）（対面） faire 「する」 partir 「出発する」 数字(60～70) 7 Lecon 7 時刻や天候など日常表現（対面） 「何時？」「…時」お天気は？ il faut 「～しなければならない」 数字(70～80) 8 Lecon 8 オンデマンド授業 復習回 動画配信+Classroomで質疑応答 Lecon 5～7の復習 9 Lecon 9 疑問形容詞・不規則動詞・目的語代名詞（対面） 「どの～」 「どれ～」 devoir 「～しなければならない」 lire 「読む」 connaître 「知っている」 数字(80～90) 10 Lecon 10 代名動詞・不規則動詞（対面） voir 「見る」
------	--

	savoir「知る」 数字(90～100) 11 Lecon 11 過去形 avoir / etre (対面) 「～をした」 12 Lecon 12 オンデマンド授業 復習回 動画配信+Classroomで質疑応答 Lecon 9～11の復習 13 Lecon 13 総復習回 実践フランス語 revisions+supplement (対面) 料理・メニューを読み取ろう フランス料理の特殊な言い回し カフェ・レストランでの注文 お店での買い物 14 Lecon 14 復習回 Revisions +supplement 実用フランス語検定5級練習問題 (対面) 仏検に挑戦しよう！ 15 Lecon 15 期末試験 (対面)
到達目標・基準 C評価になる基準	学年末には実用フランス語検定5級を習得するレベルまで達する。5級受験用練習問題も扱う。 ○B：フランス語圏の人と臆せず基本的なコミュニケーションができる。 ◎E：基本的なフランス語の表現ができる。
事前・事後学習	毎日学習：前回学んだ講義内容を参考に、発音を意識してテキストを音読し、文章を覚える。(毎日15分程度) 事後学習：今回学んだ文法を理解して練習問題を解く (30分程度)
指導方法	教科書の内容に沿って、文法を分かり易く説明して理解させる。文字の読み方をしっかり確認しながらフランス語を声に出して発音させる。実際にロールプレイで全員が参加してコミュニケーションを取りながら会話の練習をする。目や頭ではなく、口と耳をフル回転して楽しくフランス語を身に付けていく。 フィードバックの方法：練習問題を皆で確認する。フランス語での質疑応答で理解度を確認する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○B：間違いを恐れずに相手に伝えるという意欲を評価する。 ◎E：授業での口頭の受け答えを評価する。 授業での課題30% 授業への貢献度30% 口頭試験40%
テキスト	Nouveau Ken et Juliet (駿河台出版社) 講師参考資料よりプリントの配布
参考書	講師参考資料 Bescherelle la conjugaison C'est la vie 早美出版社 Mon premier vol Tokyo-Paris 駿河台出版社 Une aventure 早美出版社 パターンで話せるフランス語 ナツメ社
履修上の注意	フランス語の授業を受けに来るのではなく、フランス語を話にくる事を意識しましょう。 また毎日の音読で、必ず近い将来、旅行先で、社会人になって仕事場で、街中で、習得したフランス語を活かせるように、自分なりの目標・目的を持って授業に臨みましょう。1回でも欠席するとそれをきっかけに分かなくなるので欠席は極力しないようにしましょう。また、オンデマンド授業は復習回です。分からない時は何度も視聴して活用しましょう。 フランス語は日本において日常触れている身近な言葉です。 英語が外国語として主流の日本で、実はフランス語も毎日触れている言葉です。 多様性が求められ、様々な文化・文明への探求が益々求められる日本社会において、フランス語は教養語ではなく、日常語であり、よく耳にする、見る言葉です。意外にもフランス語は私達の日々の生活に溢れています。レストラン、ホテル、空港、ファッションアイコン、オリンピック・パラリンピックの公用語、多数のアフリカ諸国の公用語、国際機関においてもフランス語は必須です。この機会に1年間で社会で使える基礎フランス語を身に付けましょう。 また学年末には実用フランス語検定5級にもトライしましょう。
アクティブ・ラーニング、PBL	ペアワーク、PBL型学習

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
中村公子（契約講師：史悦）			
ナンバリング：G15C30（1年生）	ナンバリング：G16C34（2年生）		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☒ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） 中国語の表音文字である「ピンイン」の読み方、書き方から学び、中国語の発音、挨拶、別れ、お礼、お詫びなど基本的な会話表現と基礎文法を習得する。中国文化に触れながら、自信を持って基礎的なコミュニケーション能力を鍛えるのが、授業の内容である。 （授業目標） 中国語の発音と基礎文法を習得し、「聴く・話す・読む」の応用能力を養うことを目標とする。 （学習成果） ◎B：日常的な会話ができると同時に、中国文化と伝統も理解することができる。 ○D：中国語で基本的な願望、意思を伝えることができる。
----------------------------------	---

授業計画	1 ガイダンス 【対面】 自己紹介、授業内容・学び方に関する説明 挨拶：こんにちは ピンイン：声調と母音(単母音) 2 発音、挨拶 【対面】 ピンイン：複合母音 挨拶：ありがとう 発音実習：ピンイン発音練習 3 発音、文法 【対面】 ピンイン：子音、巻舌音 文法：1. “何に？” 2. “是” 構文 3. “吗” を使った疑問文 ペアワーク：自己紹介 4 発音、文法 【対面】 ピンイン：n、ng の区別 文法：1. “谁”と“哪” 2. 助詞“的” 3. 助詞“呢” (1) ペアワーク：家族メンバーを紹介する 5 発音練習、文法 【対面】 発音練習：有気音と無気音の区別 文法：1. 100までの数字 2. 変化を表す“了” 3. 代詞“几” ペアワーク：家族の状況を紹介する 6 発音練習、文法 【対面】 発音練習：声調の組み合わせ① 文法：1. “会” ① 2. 形容詞述語文 3. “どうですか？” ① ペアワーク：中国語が話せる 7 発音練習、文法 【対面】 発音練習：声調の組み合わせ② 文法：1. 日にちの表し方 (1) 2. 名詞述語文 3. 連動文 (1) ペアワーク：お誕生日の表し方 (Q&A) 8 発音練習、文法 【対面】 発音練習：声調の組み合わせ③ 文法：1. 能願動詞“想” 2. 金額の表し方 3. “多少” ペアワーク：一週間の計画 (Q&A) 9 発音練習、文法 【対面】 発音練習：声調の組み合わせ④ 文法：1. 動詞“在” 2. “哪儿” 3. “呢” ペアワーク：友達の仕事について紹介する 10 “有”を使った文 【対面】 発音：軽声の読み方 文法：1. “有”を使った文 2. “能” 3. “请”を使った命令文 ペアワーク：座席の位置を紹介する 11 時間の表し方 【対面】 発音：軽声の機能 文法：1. 時間の表し方 2. 名詞“前” ペアワーク：1日の生活習慣を話す
------	--

	12 主述述語文 【対面】 発音：声調の組み合わせ① 文法：1. “怎么样” 2. 主述述語文 3. “会” (2) ペアワーク：天気状況の表し方 (Q&A) 13 中国文化① 【オンデマンド】 中国茶紹介 (資料や動画を配布) 課題：中国茶について (Q&A) (クラスルームに課題を提出する) 14 中国文化② 【オンデマンド】 中国食文化・民族衣装 (資料や動画を配布) 課題：中国食文化・民族衣装について (Q&A) (クラスルームに課題を提出する) 15 復習とまとめ練習問題 【オンデマンド】 半年間の総復習とまとめ練習問題 (筆記問題) (クラスルームに提出する)
到達目標・基準 C評価になる基準	◎B：中国語の基本挨拶を習得する。 ○D：語彙力を増やし、初歩的な会話を聞き取りができる。
事前・事後学習	事前学習：単語及び本文の意味を確認する。(15分程度) 事後学習：単語を覚え、本文を読んで、課題 (毎回の授業で指示する) を完成させる。クラスルームに課題を提出する。(40分程度)
指導方法	教科書に基づき授業を進める。各課の単語、本文と文法ポイントを指導した後、全体的に復習し、さらに応用練習を通じて、学生一人ひとりが習得できるように努める。 <フィードバックの方法> クラスルームを通じて ① 事前課題を提示、② 筆記課題、動画課題提出 (学生)、 ③ 指摘事項を記入し返却、④ 質問があった場合には、個別に対応する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎B：授業中の参加態度及びペアワーク活動を評価する。 ○D：課題の提出物と期末練習問題を評価する。 授業態度・貢献度40%、課題40%、まとめ練習問題20%
テキスト	『中国語の世界標準テキスト1』北京語言大学出版社編 出版社：株式会社スプリックス 出版日：2021年4月1日 初版第3刷発行 ISBN978-4-906725-18-2 定価：¥2,420 (本体2,200円+税10%)
参考書	電子辞書を推薦する。
履修上の注意	・毎回の授業が大切です。欠席せずに積極的に参加しましょう。 ・出欠確認の方法については初回オリエンテーションの際に説明する。 ・学期末には中国語資格試験HSK1級 (初級) にもトライしましょう。
アクティブ・ラー ニング、PBL	PBL型授業 (ペアワーク) Flipped learning

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	総合：選択
担当教員			
中村公子（契約講師：史悦）			
ナンバリング：G26C35			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☒ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力		
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） 中国の文化や生活習慣について知ると共に、中国語の初級段階の発音、語彙、文法、表現などの学習事項を理解・習得する。応答練習やペアワークを通じた会話練習やリスニング練習を行い、スキルの向上をはかる。 （授業目標） 中国語標準的な発音と初級レベルの文法を習得し、200-300前後の単語を身に付ける、日常的なコミュニケーション能力をアップすることが指導目標。 （学習成果） ◎B：中国語で生活場面に適したコミュニケーションをとることができる。 ○D：語彙を増やし、日中文化・風習の同異性を理解することができる。		
授業計画	1	復習・概数の表し方 【対面】 1. 中国語Ⅰの復習と練習 2. 概数の表し方：几、多 ペアワーク：旅行について	
	2	疑問文 【対面】 1. “是不是”を使った疑問文 2. 代詞“每”、疑問代詞“多” グループワーク：基礎情報と運動状況について	
	3	“的”を使った文 【対面】 1. “的”を使った文 2. “一下”を使った文 ペアワーク：どれが誰の物か尋ねて、確認する	
	4	“是……的”構文 【対面】 1. “是……的”構文 2. 時間を表す：……時 ペアワーク：中国語の勉強経歴について	
	5	副詞：“就”、“還” 【対面】 1. 副詞：“就” “還” ① 2. “有点儿” グループワーク：ある物事に対する見方を尋ねる	
	6	原因表し関連詞 【対面】 1. 疑問代詞“怎么？” 2. 原因表し関連詞 ペアワーク：“怎么”を用いてを練習する	
	7	場所、時間、目的の距離を表す 【対面】 1. 場所、時間、目的の距離を表す。 2. 副詞“就” “還” ② グループワーク：お誕生日のお祝いの仕方について	
	8	兼語文、動詞の重ね型 【対面】 1. 疑問文“……，好吗” 2. 兼語文 ペアワーク：兼語文運用	
	9	結果補語、順序を表す方法 【対面】 1. 結果補語 2. 順序を表す“第～” ペアワーク：趣味について	
	10	否定式命令文 【対面】 1. 命令文：“不要……了” / “別……了” 2. 介詞：“对” グループワーク：“对”を使って会話を作る	
	11	比較の言い方 【対面】 1. 比べるを表す“比”構文① 2. 助動詞“可能”	

	12 ペアワーク：“比”の構文 状態補語 【対面】 1. 状態補語 2. 比べる表す“比”構文 グループワーク： “比”の構文練習する 13 中国文化③ 【オンデマンド】 中国文化：観光地・世界遺産（資料・動画を配布） 課題：観光地・世界遺産について（Q&A）（クラスルームに課題を提出する） 14 中国文化④ 【オンデマンド】 中国文化：行事・お祭り（資料・動画を配布） 課題：行事・お祭りについて（Q&A）（クラスルームに課題を提出する） 15 復習とまとめ練習問題 【オンデマンド】 半年間の総復習とまとめ練習問題（筆記問題）（クラスルームに提出する）
到達目標・基準 C評価になる基準	◎B：語彙と本文を読める、意味を理解する。 ○D：中国語で基本的な願望、意思を伝えることができる。
事前・事後学習	事前学習：新出単語及び例文を発音し意味を理解する。（30分以上） 事後学習：語彙を暗記し、本文を暗唱で、課題（毎回の授業で指示する）を完成させる。クラスルームに課題を提出する。（60分以上）
指導方法	原則として教科書に基づき授業を進めるが、各課の単語、本文と文法ポイントを指導した後、全体的に復習し、さらに応用練習を通じて、学生一人ひとりが習得できるように努める。 ＜フィードバックの方法＞ クラスルームを通じて ① 事前課題を提示、② 筆記課題、動画課題提出（学生）、 ③ 指摘事項を記入し返却、④ 質問があった場合には、個別に対応する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎B：授業中の参加態度及びペアワーク活動を評価する。 ○D：課題の提出物とまとめ練習問題を評価する。 授業態度・貢献度40%、課題40%、まとめ練習問題20%
テキスト	『中国語の世界標準テキスト2』北京語言大学出版社編 出版社：株式会社スプリックス 出版日：2021年4月1日 初版第2刷発行 ISBN978-4-906725-19-9 定価：¥2,585（本体2,350円＋税10%）
参考書	電子辞書を推奨する。
履修上の注意	・毎回の授業が大切です。欠席せずに積極的に参加しましょう。 ・出欠確認の方法については初回オリエンテーションの際に説明する。 ・学年末には中国語資格試験HSK2級（初級）にもトライしましょう。
アクティブ・ラー ニング、PBL	PBL型授業（ペアワーク、グループワーク） Flipped learning

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
姜琬嬉			
ナンバリング：G15C32（1年生）	ナンバリング：G16C36（2年生）		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☒ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	【授業内容】 韓国語の文字（ハングル）の読み書きを学び、基本的な文型の習得や応用練習など韓国語の基礎力を養う。また、韓国語での基礎的な表現に自信を持ち、簡単な日常会話や挨拶ができるように繰り返し演習を行う。ハングルの確実に習得し、初級レベルの韓国語の文法知識を身につけることを目指すのが、本授業の内容である。 【授業目標】 韓国語の文字であるハングルの仕組みと作り方を理解した上で、基本子音字、基本母音字、合成母音字、終声（パッチム）の正確な読み書きを身につけることを第一の目標とする。次に、単語の読み方、書き方、発音のルールなどを習得し、初級レベルの基礎文法（助詞、肯定・否定文、疑問文など）を使いながら、韓国語で挨拶や簡単な自己紹介ができることを目標とする。 【学習成果】 ◎B：間違いを恐れず、自信を持って話すことができ豊かなコミュニケーションができる。 ○E：基本文型や表現を身につけ、他の状況や課題に応用できるスキルを高めることができる。
----------------------------------	---

授業計画	1 ガイダンス及び1課 文字と発音 授業内容と計画などを紹介 韓国語の自己紹介&挨拶の表現と練習（はじめまして。名前+と申します） 韓国語文字（ハングル）の紹介 単母音・初声その1 小テスト①：学習内容の確認 2 1課 文字と発音 復習：前回の内容確認（単母音・初声その1） 半母音+単母音、終声・その1 小テスト②：学習内容の確認 3 2課 文字と発音 復習：前回の内容確認（半母音+単母音、終声・その1） 初声・その2（平音）、発音の規則：有声音化 小テスト③：学習内容の確認 4 2課 文字と発音 復習：前回の内容の確認（初声・その2-平音） 半母音+単母音、発音の規則：連音化 小テスト④：学習内容の確認 5 3課 文字と発音 復習：前回の内容の確認（半母音+単母音、発音の規則：連音化） 初声・その3（激音）、初声・その4（濃音） 小テスト⑤：学習内容の確認 6 3課 文字と発音 復習：前回の内容の確認（初声・その3-激音、初声・その4-濃音） 終声・その2、発音の規則：濃音化 小テスト⑥：学習内容の確認 7 4課 韓国人です。 小テスト⑦：授業前、ハングル総合テスト 自己紹介の表現、助詞（は） 文法解説（教科書 pp. 24-26） 語彙と表現、会話本文の解説、口頭練習（教科書 pp. 22-23） 8 4課 韓国人です。 小テスト⑧：前回の内容の確認 練習問題、答えあわせ、補足説明（教科書 pp. 24-26） 会話文の演習 9 5課 韓国語は専攻ではありません。 復習：前回の内容の確認 否定形、助詞（が）、～です・ですか。 文法解説（教科書 pp. 32-34） 語彙と表現、会話本文の解説、口頭練習（教科書 pp. 30-31） 小テスト⑨：学習内容の確認
------	---

	10 5課 韓国語は専攻ではありません。 小テスト⑩：前回の内容の確認 練習問題、答えあわせ、補足説明（教科書 pp. 32-34） 会話文の演習 11 6課 教室は階段の横にあります。 復習：前回の内容の確認 漢数字、文法解説（教科書 pp. 38） 練習問題、答えあわせ 小テスト⑪：学習内容の確認 12 6課 教室は階段の横にあります。 復習：前回の内容の確認 存在の表現、助詞（に）、位置を表す言葉 語彙と表現、会話本文の解説、口頭練習（教科書 pp. 39-40） 練習問題、答えあわせ、補足説明 小テスト⑫：学習内容の確認 13 6課 教室は階段の横にあります。（オンデマンド） 学習内容の動画配信 会話文の演習 グループワークのテーマを事前に配信します。グループワークを行い、Classroomにて提出してください。 14 学習理解度の確認（オンデマンド） 学習動画配信 半期の振り返りと理解度確認 小テスト⑬：学習内容の最終確認、総合テスト 15 総まとめ（オンデマンド） テスト解説の動画配信 総合テストの解説とフィードバック 半期の総まとめ
到達目標・基準 C評価になる基準	◎B：韓国語で挨拶や自己紹介ができる。 ○E：名詞や助詞を使い、短文を作ることや解釈することができる。
事前・事後学習	事前学習：教科書の語彙を予習として覚えること。（20分） 教科書の文法内容を読んで学習内容について調べること。（20分） 音声資料を聞きながら実際に声を出して発音の練習をすること。（10分） 事後学習：教科書の文型練習や応用練習を解いてみる。（20分） 音声資料を聞きながら声を出して練習し、内容を覚えること。（20分） 覚えにくい語彙や文法内容をノートに書きながら整理すること。（10分）
指導方法	教科書をメインにして順序よく進め、パワーポイント、映像資料などを使用し説明する。 一方的な講義ではなくFlipped learning、グループワークを積極的に取り入れる。 フィードバックの仕方：課題については返却の際に個別対応する。 小テストを行い、採点・返却時に解説を行う。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎B：授業への参加態度及び質疑対応を評価する。 ○E：小テスト、課題を評価する。 課題30%、小テスト・グループワーク50%、授業態度・貢献度20%
テキスト	『韓国語の世界へ 入門編』、李潤玉他4人、朝日出版社、2024年度四訂版、ISBN978-4-255-55710-6 C1087
参考書	
履修上の注意	毎回の授業内容が大事ですので、やむを得ない事情以外は出席してください。 予習・復習をとぎれることなく積み重ねていきましょう。 授業に積極的に参加してください。 課題は必ず期限内提出してください。
アクティブ・ラー ニング、PBL	PBL型授業（グループワーク） Flipped learning

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	総合：選択
担当教員			
姜瑢嬉			
ナンバリング：G26C37			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☒ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	【授業内容】 韓国語（ハングル）の読み書きができることを前提に、初級レベルの文法や文章の作り方を学ぶ。この授業では「韓国語 1」に引き続き韓国語の「文法」習得に重点を置いて、初級レベルで必要な語彙と基本文型を学んでいく。教科書に沿って簡単な日常会話を練習、自分の意見や考えなどを韓国語で伝えることができるように練習を重ねる。 【授業目標】 初級レベルの基本的な語彙と文法事項（丁寧形、過去形、叙述形など）を正しく理解し、日常生活においてよく使う簡単な文章を韓国語で自由に読み書きすることができる。さらに韓国語特有の文法事項にも注意を向け、日本語との相違点や日本人学習者が間違いやすい点（助詞の使いなど）についても理解を深めることができる。 【学習成果】 ○A：学んだ文法や単語を使い、グループで会話練習をしながら学習した知識が運用できる。 ◎E：語彙を増やし、質問に自分の意見を韓国語で表現できる。
----------------------------------	--

授業計画	1 授業紹介 韓国語 1 復習(第1課～第6課) 韓国語 2 シラバス紹介 2 第7課 午後、時間大丈夫ですか。 ～です・ます形①、助詞（～を、～も） 文法解説（教科書pp. 46～48） 語彙と表現、会話本文の解説、口頭練習（教科書pp. 44～45） 小テスト①：学習内容の確認 3 第7課 午後、時間大丈夫ですか。 小テスト②：前回の内容の確認（7課ヨ体語彙） 練習問題、答え合わせ、補足説明（教科書pp. 46～48） 会話文の演習 4 第8課 小学生にテコンドーを教えています。 ～です・ます形②、助詞（場所＋で、～に） 文法解説（教科書pp. 52～54） 語彙と表現、会話本文の解説、口頭練習（教科書pp. 50～51） 小テスト③：学習内容の確認 5 第8課 小学生にテコンドーを教えています。 小テスト④：前回の内容の確認（8課ヨ体の語彙） 練習問題、答え合わせ、補足説明（教科書pp. 52～54） 会話文の演習 6 第9課 ふつう、6時に起きます。 ～です・ます形③、助詞（手段＋で、～から～まで①）、固有数字 文法解説（教科書pp. 60～63） 語彙と表現、会話本文の解説、口頭練習（教科書pp. 58～59） 小テスト⑤：学習内容の確認 7 第9課 ふつう、6時に起きます。 小テスト⑥：前回の内容の確認（9課ヨ体語彙、時計の読み方） 練習問題、答え合わせ、補足説明（教科書pp. 60～63） 会話文の演習 8 第10課 野球がとても好きです。 ～です・ます形④、助詞（～しに、～から～まで②） 文法解説（教科書pp. 68～70） 語彙と表現、会話本文の解説、口頭練習（教科書pp. 66～67） 小テスト⑦：学習内容の確認 9 第10課 野球がとても好きです。 小テスト⑧：前回の内容の確認（10課ヨ体語彙） 練習問題、答え合わせ、補足説明（教科書pp. 68～70） 会話文の演習 10 第11課 昼ごはん、食べなかったですか。
------	---

	過去形、〇変則、否定形 文法解説（教科書pp. 76～78） 語彙と表現、会話本文の解説、口頭練習（教科書pp. 74～75） 小テスト⑨：学習内容の確認 1 1 第11課 昼ごはん、食べなかったですか。 小テスト⑩：前回の内容の確認（過去形語彙） 練習問題、答え合わせ、補足説明（教科書pp. 76～78） 会話文の演習 1 2 第12課 春休みには何をするつもりですか。 敬語、計画、希望の表現 文法解説（教科書pp. 82～84） 語彙と表現、会話本文の解説、口頭練習（教科書pp. 80～81） 小テスト⑪：学習内容の確認 1 3 第12課 春休みには何をするつもりですか。（オンデマンド） 小テスト⑫：前回の内容の確認 学習内容の動画配信 練習問題、答え合わせ、補足説明（教科書pp. 82～84） 会話文の演習 グループワークのテーマを事前に配信します。グループワークを行い、Classroomにて提出してください。 1 4 学習理解度の確認（オンデマンド） 学習動画配信 半期の振り返りと理解度確認 小テスト⑬：学習内容の最終確認、総合テスト 1 5 総まとめ（オンデマンド） テストの解説の動画配信 総合テストの解説とフィードバック 半期の総まとめ
到達目標・基準 C評価になる基準	○A：グループワークをクラスで協働しながら、楽しく韓国語を身につけられる。 ◎E：質問を理解し、正しい単語や文法を使い答えることができる。
事前・事後学習	事前学習：教科書の語彙を予習として覚えること。（20分） 教科書の文法内容を読んで学習内容について調べること。（20分） 音声資料を聞きながら実際に声を出して発音の練習をすること。（10分） 事後学習：教科書の文型練習や応用練習を解いてみること。（10分） 音声資料を聞きながら声を出して練習し、内容を覚えること。（20分） 覚えにくい語彙や文法内容をノートに書きながら整理すること。（20分）
指導方法	教科書をメインにして順序よく進め、パワーポイントを使用し説明する。 一方的な講義ではなくグループワーク、レクリエーションゲーム等を積極的に取り入れる。 Flipped classroomを設け能動的な学習スタイルを通じ、学習効率を上げる。 フィードバックの仕方：音声課題については返却祭に個別対応する。 小テストを行い、学習状況を把握する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○A：提出物（グループワーク）を評価する。 ◎E：小テストや課題を評価する。 課題30%、小テスト・グループワーク50%、授業態度・貢献度20%
テキスト	『韓国語の世界へ 入門編』、李潤玉他4人、朝日出版社、2024年度四訂版、ISBN978-4-255-55710-6 C1087
参考書	
履修上の注意	毎回の授業内容が大事ですので、やむを得ない事情以外には出席してください。 欠席した場合はGoogle classroomの授業資料を活用し、自習してください。 予習・復習をとぎれることなく積み重ねていきましょう。 グループワークには積極的に参加しましょう。
アクティブ・ラー ニング、PBL	Flipped learning PBL型授業（グループワーク）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	総合：選択
担当教員			
洪承希			
ナンバリング：G25C34			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力		
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） 韓国語能力試験（TOPIK）2級の合格を目指す。TOPIK 2級レベルの単語や文法を学びながら、過去問題の解説を通じて2級問題のパターンを把握し、実際の試験に備えて問題を解く練習を行う。 （授業目標） TOPIK 2級に合格する。 （学習成果） ☐ D：日常生活の会話や文章から得られる情報を適切に理解し、それに基づいて質問に答えることができる。 ☒ E：韓国語2級レベルの単語と文法を理解し、文脈に応じて情報を解釈できる力を身につける。		
授業計画	1 ガイダンス、TOPIK I 試験の概要 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明 <読解パターン1>過去問40~42番の解説及び練習 2 聞き取りパターン1、読解パターン2 聞き取り：過去問11~14番、読解：過去問43~45番の解説及び練習 3 聞き取りパターン2、読解パターン3 聞き取り：過去問15~16番、読解：過去問46~48番の解説及び練習 4 聞き取りパターン3-①、読解パターン4 聞き取り：過去問17~21番、読解：過去問49~52番の解説及び練習 5 聞き取りパターン3-②、読解パターン5 聞き取り：過去問17~21番、読解：過去問53~56番の解説及び練習 6 聞き取りパターン4、読解パターン6 聞き取り：過去問22~24番、読解：過去問57~58番の解説及び練習 7 聞き取りパターン5、読解パターン7 聞き取り：過去問25~26番、読解：過去問59~62番の解説及び練習 8 聞き取りパターン6、読解パターン8 聞き取り：過去問27~28番、読解：過去問63~64番の解説及び練習 9 聞き取り復習①、読解パターン9 聞き取り：過去問1~10番、読解：過去問67~68番の解説及び練習 10 聞き取り復習②、読解パターン10 聞き取り：過去問11~21番、読解：過去問69~70番の解説及び練習 11 聞き取り復習③ 聞き取り：過去問22~30番 12 TOPIK I 読解模擬試験 過去問1~70番の問題を解いてみる 13 オンデマンド：聞き取りパターン7、読解パターン11 聞き取り：過去問5~6番、読解：過去問31~33番の解説及び練習 14 オンデマンド：聞き取りパターン8、読解パターン12 聞き取り：過去問34~39番、読解：過去問1~4番の解説及び練習 15 オンデマンド：聞き取りパターン9 聞き取り：過去問7~10番の解説及び練習		
到達目標・基準 C評価になる基準	☐ D：自己紹介、趣味、天気等について短い文章で表現できる。 ☒ E：短い文章を読んで中心になる考えを選ぶことができる。		
事前・事後学習	事前学習：課題で出された語彙を覚える。（30分程度） 事後学習：授業内容を復習しながら問題内容を理解する。（30分程度）		
指導方法	テキストを使用して語彙と文法を確認する。過去問をパターン別に分析したプリントを使用して説明する。		

	フィードバックの仕方： 毎回語彙の小テストを行い、採点して返却
アセスメント・成績評価の方法・基準	○D：授業態度及び授業貢献度によって評価する。 ◎E：課題、小テスト、提出物によって評価する。 小テスト40%、 課題30%、 授業態度・貢献度30%
テキスト	合格できる韓国語能力試験TOPIK I、プリント
参考書	
履修上の注意	TOPIK 2級合格のためには、まず単語を覚える努力が大事です。単語学習に十分に力を入れてください。毎回の授業では、違うパターンの過去問題を解説しながら練習していきます。やむを得ない事情以外は出席してください。
アクティブ・ラーニング、PBL	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：選択
担当教員			
洪承希			
ナンバリング：G25C35			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー □A：他者と協力して共に創り上げる力 □B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 □C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ■D：知識を活かして考える力 ■E：学んで理解する力
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 韓国語能力試験（TOPIK）3級の合格を目指す。TOPIK 3級レベルの単語や文法を学びながら、過去問題の解説を通じて3級問題のパターンを把握し、実際の試験に備えて問題を解く練習を行う。 (授業目標) TOPIK3級に合格する。 (学習成果) ○D：韓国語の3級単語や文法を適切に使い、与えられたテーマについて自分の意見や考えを韓国語で論理的に表現することができる。 ◎E：韓国語で日常生活に関する話題や社会的な関係を維持するために必要な表現を理解できる。
授業計画	1 ガイダンス、TOPIK II 試験の概要 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明 <聞き取りパターン1>過去問1、2番の解説及び練習 2 読解パターン1，聞き取りパターン2 読解：過去問1〜4番、聞き取り：過去問3番の解説及び練習 3 読解パターン2，聞き取りパターン3 読解：過去問5〜8番、聞き取り：過去問4〜8番の解説及び練習 4 読解パターン3，聞き取りパターン4 読解：過去問9〜12番、聞き取り：過去問9〜12番の解説及び練習 5 読解パターン4，聞き取りパターン5 読解：過去問13〜15番、聞き取り：過去問13〜16番の解説及び練習 6 読解パターン5，聞き取りパターン6 読解：過去問16〜18番、聞き取り：過去問17〜20番の解説及び練習 7 聞き取りパターン7、作文 聞き取り：過去問21〜22番、作文：51，52番の解説及び練習 8 読解パターン6、作文 読解：過去問19〜20番、作文：53番の解説及び練習 9 聞き取りパターン8、作文 聞き取り：過去問23〜24番、作文：51，52番の解説及び練習 10 読解パターン7、作文 読解：過去問21〜22番、作文：53番の解説及び練習 11 読解パターン8、作文 読解：過去問23〜24番、作文：51，52，53番の解説及び練習 12 TOPIK3級模擬試験 過去問1〜24番、作文51，52，53番の問題を解いてみる 13 オンデマンド：読解、聞き取りパターン9 読解：過去問25〜27番、聞き取り：過去問25〜26番の解説及び練習 14 オンデマンド：読解パターン10 読解：過去問28〜31番の解説及び練習 15 オンデマンド：聞き取りパターン10 読解：過去問27〜30番の解説及び練習
到達目標・基準 C評価になる基準	○D：日常生活に関する短い会話内容を聞いて、何をしているのか説明できる。 ◎E：韓国語の文語と口語の違いを区別することができる。
事前・事後学習	事前学習：課題で出された語彙を覚える。（40分程度） 事後学習：授業内容を復習しながら問題内容を理解する。（30分程度）

指導方法	テキストを使用して語彙と文法を確認する。過去問をパターン別に分析したプリントを使用して説明する。 フィードバックの仕方： 毎回語彙の小テストを行い、採点して返却。 4回作文練習行い、添削・返却時に解説を行う。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○D：授業態度及び授業貢献度によって評価する。 ◎E：課題、小テスト、提出物によって評価する。 小テスト40%、 課題30%、 授業態度・貢献度30%
テキスト	合格できる韓国語能力試験TOPIKⅡ、プリント
参考書	
履修上の注意	TOPIK 3級合格のためには、まず単語を覚える努力が大事です。単語学習に十分に力を入れてください。毎回の授業では、違うパターンの過去問題を解説しながら練習していきます。やむを得ない事情以外は出席してください。
アクティブ・ラー ニング、PBL	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	総合：選択
担当教員			
澁木祥子、中村公子、布施梓、江原数彦、村木桂子			
ナンバリング：G37C38			授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☒A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐D：知識を活かして考える力 ☐E：学んで理解する力
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） 今日の課題解決を通じ「大学での一般的授業では体験できない機会」を経験するPBL型授業である。指定するプロジェクトに参加して、課題解決のためにグループで活動し、所定の成果を出すことで単位修得ができる。リーダーシップの基本的な理論や知識を学び、様々な価値観や考え方を他者との関係性をくぐらせながら自分の強みを発見し、磨き上げていく。チームメンバーとの協働やディスカッションを通して、他のメンバーの特徴を理解しつつ、全体のパフォーマンスを最大化するために、主体的にチームで活動する。授業の中で実際にリーダーシップを発揮する機会（新入生向けイベント）を作り、自分自身の強みをいかして活動していく授業である。 （授業目標） リーダーシップに関する基本的な理論や知識を理解するとともに、自らのリーダーシップを開花するための方法やスキルを身につけることを目標とする。チームメンバーとの協働やディスカッション、新入生向けイベントづくりに主体的に取り組み、多角的・批判的に物事を捉える「思考力」や相手の意見を踏まえつつ最適なものを選択する「判断力」、他者に論理的・説得的に伝える「表現力」を身につけることができることを目標とする。実社会での多様で複雑な課題や価値観に触れ、学び成長し続けることの大切さを自覚し、社会で活躍できる人材となることを目標とする。 （学習成果） ◎A：課題内容とチーム全体の状況をよく理解し、成果実現のために臨機応変に最後まで貢献することができる。 ◎C：プロジェクトの目標達成に向けて主体的にPDCAを回し、チーム活動の推進に貢献することができる
授業計画	1 説明会・プロジェクトマネジメント研修 産学（官）連携プログラムの意義、目的について、プログラムスケジュール、具体的なゴールのイメージを共有する 「課題の理解・深堀」と「課題に纏わる現状調査・理解」、「連携企業・地域理解」の必要性について理解する 2 オリエンテーション・課題理解 プログラムの意義、目的について、参加メンバー紹介、プログラムスケジュールを共有する プログラムにおける課題を自分事として捉えて今後の取り組みに備える 3 掲示された課題の検討・作成（グループワーク） 講義、資料検索、学生同士の意見交換（グループ・ペアワーク、ディスカッション、ディベート等含む）などを通じて、課題解決案を作成する（5～6週） 4 中間報告会（プレゼンテーション） 各自取組中の状況報告を行い、取り組むべき方向性について、教員からフィードバックをもらい、解決案をブラッシュアップする 5 課題解決案の実現（グループワーク） 解決案をまとめ、それを実現し、結果についての調査・分析をまとめる（5～6週） 6 全体まとめ・ふりかえり 結果の報告をし、評価をうける。学生同士による活動全体の学習のふりかえりを行う
到達目標・基準 C評価になる基準	実社会での多様で複雑な課題や価値観に触れ、学び成長し続けることの大切さを自覚し、社会で活躍できる人材となることを目標とする。 ◎A：課題内容と自らの役割をよく理解し、成果実現のために最後までチームに貢献することができる。 ◎C：プロジェクトの目標達成に向けてPDCAを回し、チーム活動の推進に貢献することができる
事前・事後学習	事前学習：情報収集や提案内容のまとめなど、次回授業に向けて必要な準備をする。（30分） 事後学習：事後のふりかえり、関連する社会課題などの学習、進捗状況によってはグループ活動など。（30分）
指導方法	産学（官）連携によるPBL型授業である。グループ活動が基本となり、課題解決案の提示からその実現、成果の分析・報告までが原則のプログラムとなる。 フィードバックの方法：担当教員から、適宜、個別あるはグループ、履修者全体に対してフィードバックする。 授業は原則として、パワーポイントやプリントを使用しての講義と、個人ワーク、グループワークで進められる。授業で学び、考え、計画をたてて実行し、それらをふりかえって次の授業に臨むという一連の流れである。

アセスメント・成績評価の方法・基準	事前・事後学習を含めて活動し、一定の成果を出し決められたプログラムを修了することで、評価する。 ◎A：平常点および成果発表で評価する。 ○C：平常点および成果発表で評価する。 平常点（課題提出、貢献度）50%、 成果発表（最終成果物、プレゼンテーション、報告レポートなど） 50%
テキスト	なし（必要に応じて、指示する）
参考書	必要に応じて、指示する
履修上の注意	*開講時期は1年後期となるため、履修登録はプロジェクト終了後（2年次）に行う。担当教員の指示に従うこと。 *参加希望者は学内連絡をよく確認し、説明会に必ず参加すること。 *放課後の活動だけでなく、休日の活動、春期休暇の活動が含まれる場合もある。 *プロジェクト演習に係る交通費・食費・宿泊費等は参加者の負担となる場合もある。 *グループの進捗状況に応じて、事前事後のグループ活動を授業外で行う必要が生じる。
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク、PBL